板　　木

群馬県へき地教育研究資料第５８集

平成２２年３月

群　馬　県　教　育　委　員　会
群馬県へき地教育研究連盟
群馬県へき地教育振興会

板　　木

群馬県へき地教育研究資料第５８集

序

へき地教育資料「板木」は、その歴史が古く、へき地教育連盟発足の年である昭和２７年から発刊が始まり、今年度で第５８集の刊行を迎えることができました。へき地教育に関する研究や実践をまとめたこの「板木」は、へき地教育の着実な歩みそのものであり、手に取ってみると、へき地教育の重さを感じます。あらためてへき地教育の振興に御尽力いただきました多くの方々の御努力に対し、心から敬意と感謝を表したいと思います。

さて、教育基本法及び学校教育法の改正にともない、新しい義務教育の目標が規定されるとともに、各学校段階の目的・目標規定が改正されました。これを受け、新しい学習指導要領が告示されましたが、今回の改訂においては、これまでの理念を継承し、「生きる力」の育成が目標として掲げられました。

群馬県教育委員会といたしましても、『群馬県「確かな学力」向上計画』（平成１９年度～２１年度）に基づき、本県の児童生徒の「確かな学力」の向上に取り組み、現在その成果をまとめているところであります。また、教育の場において直面している多種多様な課題や国における教育改革の流れを踏まえ、教育振興施策を総合的かつ計画的に推進するために**「たくましく生きる力をはぐくむ　～自ら学び、自ら考える力を～」**を基本目標とする群馬県教育振興基本計画を平成２１年３月に策定し、本県の目指す教育の実現に向けた取組を行っているところであります。

一方、へき地教育の振興につきましては、昭和２９年の「へき地教育振興法」の制定以来、様々な施策を実施してまいりました。今年度も、へき地教育振興会への補助、へき地教育センター運営費及びへき地学校巡回図書費の補助など多くの施策を推進しております。

こうした中、各へき地学校においては、地域人材などの教育力を生かした一体感のある指導、少人数指導や異学年交流などの合同授業を通した児童生徒一人一人の個性や可能性を生かしたきめ細かな指導や恵まれた自然環境を生かした体験的な活動など、基礎・基本の確実な習得や心の教育の充実などを目指し、へき地の利点や特色を生かした教育活動が実践されております。こうした実践を日頃より積み重ねていくことは非常に意義のあることであり、今後一層へき地教育が重視されるべきものであると考えております。

このように、へき地教育の着実な充実に向けた先生方の御尽力に感謝申し上げるとともに、今後群馬県のへき地教育が更に発展するよう、関係市町村教育委員会、県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟と連携して、一層努力していきたいと思います。

最後になりますが、ここに、へき地教育研究資料「板木」第５８集の刊行に御尽力された県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟の関係各位に対し敬意を表しますとともに、各教育機関等において「板木」が十分に活用されますことを御期待申し上げて序といたします。

平成２２年３月

群馬県教育委員会

教育長　**福島　金夫**

「板木」第５８集の刊行に寄せて

群馬県へき地教育振興会は、昭和２９年「へき地教育振興法」の施行に伴い、本県へき地教育の諸条件の整備・充実を図ることを期して設立されました。そして、この目標を達成すべく、県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び県へき地教育研究連盟とともに、へき地教育にかかわる種々の事業に取り組んでまいりました。この間、県当局をはじめ、関係各位の御尽力によって、へき地学校における教育条件の整備・充実に向けた取組が着実になされ、大きな成果を挙げていることに対し、心より感謝申し上げます。

さて、昨今の社会情勢の変化にともない、教育現場には解決すべき問題が数多く生じております。少子高齢化の急速な進行や人間関係の希薄化、高度情報化社会の進展や地球環境問題の深刻化、さらに不登校やいじめ問題等、子どもたちを取り巻く環境は確実に変化しております。このような中、教育基本法や学校教育法等が改正され、学習指導要領も改訂されました。新学習指導要領では、「生きる力」の育成がこれまで以上に重視されております。また、平成２１年３月に、へき地教育振興法施行規則の一部を改正する省令が公布され、この規定にしたがって、へき地学校等の指定基準が見直されることになります。

現在、へき地学校においては、地域社会との密接な連携のもと、豊かな自然環境や子どもたち一人ひとりの個性を生かした特色ある教育活動が積極的に推進されております。このような教育環境の中で子どもたちは、「生きる力」を確実に身に付けております。これらも、へき地教育に献身的に取り組まれている先生方や地域において様々な御支援をくださっている多くの方々の御尽力の賜であると心から感謝申し上げます。

このたび、へき地教育研究連盟の方々が中心となって、本県のへき地学校で行われている特色ある教育等をまとめた「板木」第５８集が刊行されますことは、本県のへき地教育の現状や課題を明確にし、今後のへき地教育の一層の振興を図る上でたいへん意義深いものと考えます。また、この「板木」は昨年度からＷｅｂページ上でも公開されております。関係各位におかれましては、へき地教育に関する研究や実践をまとめたこの「板木」を十分御活用いただき、群馬県のへき地教育のさらなる発展・充実のために御尽力くださいますよう、心より御願い申し上げます。

最後に、平素よりへき地教育の振興に御協力いただいております県当局をはじめ、県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び各地域の皆様に、厚く御礼申し上げますとともに、一層の御指導と御協力をお願い申し上げまして、刊行に寄せてのあいさつといたします。

平成２２年３月

群馬県へき地教育振興会

会　長　　**星野　已喜雄**

「板木」第５８集の発刊にあたって

群馬県のへき地学校数は５６校です。そのうち２校が休校中となっています。県下のへき地学校は遠隔地に点在していますが、連盟の活動に横の連絡を取っていただきながら円滑に進められていることに感謝申し上げます。また、学校数の減少に伴い、本連盟のブロック編成を一昨年度から４ブロックから３ブロックとしました。特にＡブロックにつきましては、前橋・高崎・安中・多野・甘楽と広範囲にわたっており、何かとご苦労の点があろうかと存じますが、運営にご協力をいただいていますことに併せて御礼申し上げます。

群馬県のへき地学校は山間部に存在することが第一の特質であります。四季折々の自然の姿の中で、時には厳寒の冬を越す厳しさや春の温もりを感じながら、地域の伝統や芸能は生き続け、その中で育つ子どもたちは純朴で、素直な心で学んでいます。我々教師がへき地校に赴任したときの何かほっとした感じがするのは地域の生きた教育力と、地域とともに献身的な教育活動をされてきた諸先生方の努力のお陰であると思います。豊かな自然の中で育った子どもたちが社会に貢献できるよう、学習指導要領で示される「生きる力」をしっかりと子どもたちに身につけることが私たちの使命であります。新しい学習指導要領の全面実施に向けて移行期に入っていますが、児童生徒や地域の実態を把握し、各学校では創意ある教育課程の編成・実施に向けての最終の計画段階となっています。ふるさとに根ざすへき地学校は、過疎化・高齢化・少子化だけでなく、町村合併や学校の統廃合、景気の悪化等の厳しい社会の状況下にあります。この時期に改めてへき地教育の良さや課題を見つめ直し、心豊かにたくましく生きる児童生徒を育成するために、へき地の教育的特性を生かした教育課程の編成を行うことが大切な仕事であります。

さて、全へき連の第７次長期５カ年研究推進計画（平成２１～２５年度）が今年度より実施されております。研究主題「ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を築く　心豊かな子どもたちの育成」のもとに鹿児島大会が開催されました。主題の中の「新しい時代を築く」は前主題の「新しい時代を拓く」を受けて、へき地学校で学んだ子どもたち一人一人が個性や能力を十分に発揮し、急速に変化し続ける社会に調和しながら、主体的に対応できるたくましさをもって「新しい時代を築く」ための力となってほしいとの願いが込められています。「へき地に光を」ではなく「へき地から光を」の時代になってきているということでもあります。本県のへき地教育研究大会も全へき連の主題のもとに研究を重ねて参りました。共通の課題のもとの協同研究や年次ごとの成果と課題を引き継ぐ長期研究に取り組むことが、継続的、発展的な研究となり、学校経営や児童生徒の成長に役立っていくのだと考えます。

へき地教育振興法のおかげで、へき地教育の水準が引き上げられ条件整備も整えられてきています。今後も振興法がきちんと遵守され、平坦地とへき地の教育格差が生じないよう関係機関のご尽力を心より願っています。

第５８集発刊にあたり、執筆していただいた方々、編集に携わっていただいた委員の方々にお礼を申し上げるとともに、平素よりご指導ご支援をいただいています県教育委員会、県へき地教育振興会を始め、関係機関の皆様に厚く感謝を申し上げ、発刊にあたっての挨拶といたします。

平成２２年３月

群馬県へき地教育研究連盟
理事長　**西　脇　　進**

も　く　じ

序　文
県教育委員会教育長
県へき地教育振興会長
県へき地教育研究連盟理事長

第１部　へき地教育の振興
Ⅰ　変貌するへき地の学校
渋川市立三原田小学校栄分校閉校 ---------- 1
渋川市立三原田小学校（前）校長　永井　政夫

Ⅱ　へき地の学校経営
分校のよさを生かした体験活動の推進 ----------2
前橋市立滝窪小学校金丸分校教諭　上星　雅由
校訓「知・恕・健」そして「さかくら」 ----------4
東吾妻町立坂上中学校長　岩瀧　秀樹

Ⅲ　学習指導の改善に関する実践的な研究
児童の表現力を高める指導の工夫 ---------- 6
～話し合いを取り入れた活動を通して～
沼田市立利根西小学校教諭　千明　浩己

Ⅳ　へき地学校における生徒指導の実践
〈1〉小学校　基本的な生活習慣の育成を重視した生徒指導 ---------- 8
草津町立草津小学校長　黒岩　幸恵
〈2〉中学校　小規模校の特性を生かした生徒指導 ----------１０
沼田市立多那中学校教諭　山浦　政彦

第２部　へき地学校教員研修のあゆみ
Ⅰ　平成２１年度へき地学校教員研修の概要
群馬県へき地教育研究連盟研究部長 ---------- １２
長野原町立西中学校長　大前　博文

Ⅱ　第58回群馬県へき地教育研究大会

〈1〉概　　要 ---------- １３
〈2〉提案要旨
《小学校１班》
社会性・人間性を養うとともに自信と活気の漲る子を目指した学校経営 -------- １４
中之条町立伊参小学校長　　小林　髙義
《小学校２班》
自ら学び、心豊かでたくましい子の育成 ---------- １５
～小規模・複式学級の特性を生かした学校経営を目指して～
甘楽町立秋畑小学校長　　堀口　世津子
《中 学 校 班》　確かな学力・豊かな心を身に付けた生徒の育成 ---------- １６
片品村立片品中学校長　　新木　延謹
〈3〉公開授業・授業研究会
①長野原町立第一小学校 ---------- １７
②長野原町立応桑小学校 ---------- １９
③長野原町立北軽沢小学校 ---------- ２１
④長野原町立西中学校 ---------- ２３

Ⅲ　へき地教育ブロック別実践研究集会

〈1〉Ａブロック（前橋・高崎・安中・多野・甘楽）---------- ２５
〈2〉Ｂブロック（吾妻）---------- ２６
〈3〉Ｃブロック（利根・沼田・渋川）---------- ２７

Ⅳ　第５８回全国へき地教育研究大会（鹿児島大会）

〈1〉概要報告　　長野原町立西中学校長　　大前　博文---- ２８
〈2〉分科会報告
Ａ分科会　　確かな学力をはぐくむ複式学級における学習指導の在り方 ---------- ２９
～算数科・「学び方」を高める学習指導を通して～
嬬恋村立鎌原小学校長　　西脇　進
Ｂ分科会　　へき地・小規模校の特性を生かした学習指導の深化・充実 ---------- ３０
～読解力を育てる指導の工夫～
長野原町立西中学校長　　大前　博文
Ｄ分科会　　心豊かで、確かな学力を身につけた生徒の育成 ---------- ３１
～表現力の向上を目指して～
上野村立上野中学校教諭　　黒澤　守
Ｆ分科会　　基礎学力の確実な定着を図り、心豊かな子どもの育成を目指して ------ ３２
～小規模校の特性、土橋での学びを生かした小中連携を通して～
みなかみ町立藤原中学校教諭　　本多　利典
Ｇ分科会　　一人一人が生き生きと輝く教育の創造 ---------- ３３
～伝え合う力を育む学習活動を通して～
草津町立草津中学校教諭　　干川　和規

Ｈ分科会　　基礎学力の定着を図る国語科複式・少人数学習指導の在り方 ---------- ３４
～豊かな音読活動を通して～
群馬県教育委員会義務教育課指導主事　　松村　澄人
Ｉ分科会　　少人数の特性を生かした個を伸ばす指導の在り方 ---------- ３５
～基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を目指して～
沼田市立多那中学校長　　富澤　辰男
Ｊ分科会　　豊かな心を持ち、生き生きと活動する生徒の育成 ---------- ３６
～「学びのつながり・心のつながり」をめざして～
安中市立松井田北中学校長　　小板橋　善一

《資　料》

Ⅰ　へき地学校の変遷 ---------- ３７
Ⅱ　平成 21 年度へき地学校資料 ---------- ３７
Ⅲ　平成 21 年度群馬県へき地教育振興会役員 ---------- ４０
Ⅳ　平成 21 年度群馬県へき地教育研究連盟役員 ---------- ４１
Ⅴ　平成 21 年度群馬県へき地教育センター指導員 ---------- ４２
Ⅵ　平成 21 年度へき地教育功労者 ---------- ４３

あとがき ---------- ４４

群馬県へき地教育研究大会

第　1　部

へ　き　地　教　育　の　振　興

群馬県へき地教育研究大会　開会行事　理事長挨拶

群馬県へき地教育研究大会　研究協議

渋川市立三原田小学校栄分校閉校

渋川市立三原田小学校（前）校長　**永井　政夫**

１　分校概要

赤城山麓北西部（標高５４０ｍ）の栄地区にあり雄大な榛名山麓を望み、風光明媚な地に建てられました。戦後、主に赤城村の人たちが入植し開拓した地域で農業が中心。

三原田小学校栄分校は昭和３２年４月に１年生から３年生まで学ぶ分校として開校しました。開校当時の在籍は、１年１８名、２年８名、３年８名、計３４名でした。昭和４４年までは駒場地区の児童も通学していて児童数も多かったが、その後は次第に減少してきました。平成１２年度からは１年生から本校へ通うことが可能になり更に減少してきました。開校当時の父母達は「新天地開拓」の精神に燃えて、その基盤整備を始め校地校庭の整備などにも努力するなど、地域住民の陳情と労力奉仕の末に開校しました。大雨毎に荒らされる校地校庭や道路の整備を始め、給食の運搬等にも尽力されました。その気持ちは以後も引き続き分校を支えてきました。

少人数の職員での分校運営は大変な苦労がありましが分校の児童や地域の方々の活躍や協力があったことも忘れることができません。分校独自の行事や地域の行事等では少人数のため子どもたち一人一人の活躍の場は多くなるが、運営面で職員の苦労は大変なものであったと思われます。少人数のため、地域の豊かな自然環境を教材としたり、地域の人材活用をした学習をしたり、一人一人の思いや願いに基づいた学習を展開し自主的に取り組む子どもの育成に努めてきました。また、へき地教育研究会の会場を始め幾多の研究会等も実施するなど、分校の特色ある取組はへき地教育として実績を上げてきました。本校との交流行事や合同行事はその事前準備や当日の参加など多々苦労もあったことと思います。分校は３年生までで４年生から本校へ通うため、少人数から大勢の集団に入ったとき気後れをしないように､近年交流を増やす努力をしてきたためその安全面の配慮等、分校ならではの苦労もありました。その中でも子どもたちは元気に学習に取り組んできました。

さらに分校では、牛乳空き箱作品やはり絵コンクールに２０年以上取り組み、毎回入賞するとともに牛乳空き箱はり絵コンクールで１５年度から五年連続知事賞受賞という偉業を達成し、栄分校と言えば「はり絵」と言われるようになり、子どもたちの取組も意欲的でした。その分校も時代の流れの中で入学生が年々少なくなり、平成１９年度には３年生１人になってしまいました。「秋祭り」と合わせて「創立５０周年記念行事」を実施しましたが、その児童を中心に分校出身児童や地域の方々の協力で実施できました。平成２０年度にはとうとう児童数は〇名になってしまい、休校とし、平成２１年３月２８日に閉校式を実施しました。ここに、５２年間の歴史に幕を引きました。

２　おわりに

平成１９年度に赴任した時には３年生がたった１人の在籍でした。本校には算数など幾つか合同の授業に来ていたため分校へ行く機会は月１回の朝礼と分校行事等の時でした。分校朝礼では教室内での一対一でしたので何か不思議な感じがしましたが、貴重な体験として大切にしたいと思います。

栄分校で学んだ人たち、携わった先生方や協力していただいた地域の方々にとって、寂しさはあると思いますが、栄分校の思い出は何時までも心の中に残ることと思います。

今、分校で学んだ児童は本校で元気にがんばっています。

Ⅱ　へき地の学校経営
分校のよさを生かした体験活動の推進

前橋市立滝窪小学校金丸分校教諭　**上星　雅由**

１　金丸分校の概要

前橋市立滝窪小学校の約４ km 北に離れた金丸分校は、赤城山の南面、鍋割山の麓に位置し、標高は約420m あるため、冬には朝晩の冷え込みが厳しい。周囲には緑濃い森林が残り、傾斜地を利用して牧草地、花木栽培、野菜畑が広がり、四季折々を通して豊かな自然に恵まれている。

住民の気質は、開拓入植地ということもあり、生活力に逞しく連帯意識も強い。また、毎年夏には自治会総出で分校の除草作業を行ったり、学校行事には両親揃って参加したりするなど、学校に対しては大変協力的である。

金丸分校は平成６年に新校舎建設に伴い現在地に移転した。翌年体育館・プールが次々に完成し、総敷地面積１万８千㎡の広い校庭をもった学校へと生まれ変わった。新たな環境の中で教育活動を展開し、今年で16年目となる。

学校規模は、1･2年（2･3名)、3･4年（5･4名）、5･6年（5･3名）の複式３学級である。児童数22名、家庭数17、教員数６名（担任3名、複式解消非常勤講師3名)、非常勤公仕1名の国準へき地校である。

２　分校経営の重点

（１）子どもたちの生きる力を育む分校経営の充実

○へき地・小規模校・複式学級の良い面を生かし､児童の個性の伸長を図る分校経営に努める。

（２）一人一人のよさや可能性を生かす教育活動の充実

①分校の実態・特徴を生かした教科指導の改善・充実に努める。

②複式解消非常勤講師の配置により、複式授業の解消を図る。

③本校との交流学習や交流活動等を積極的に計画し、分校児童のよさや可能性が集団の中で生かせるように努める。

④地域の人・自然・文化・伝統を生かした体験的な活動の場を多く設定し、豊かな心を育むとともに、たくましい実践力のある児童の育成に努める。

（３）豊かな心を育てる教育環境の整備・充実

①校舎・校庭等の環境整備に努める。

②学校・家庭・地域社会との連携をさらに深め、開かれた分校づくりに努める。

３　実践の概要

（１）緑の少年団活動

米作り、サツマイモ・ジャガイモや草花等の栽培活動および野鳥学習会等を「緑の時間（朝活動)」を中心に行い、思いやりや自然を愛する心を、身につさせる。

米作りでは、ＪＡの協力を得て、籾まき・田植え・稲刈り・脱穀（足踏み式脱穀機や唐箕の利用）をすべて子どもたちの手作業で行っている。

（２）お正月お楽しみ会

金丸分校の大きな行事に「お正月お楽しみ会」がある。

5･6 年生の「とちのきタイム」で「お正月お楽しみ会」の運営を学習し、分校児童全体で地域のお年寄りを招待して交流を深めている。

内容：①絵画や書写の展示
②合唱や合奏の発表
③レクリエーション(自己紹介ゲーム・カルタ)
④自分達で作ったもち米でのもちつき

（３）ＰＴＡ奉仕活動

金丸分校には、年に３回の奉仕作業がある。家庭数も 17 と少ないので、多くの家庭が夫婦で参加し、児童数 22 名には広すぎる校庭や畑・学校の周りの除草作業を中心に行う。

４月：ＰＴＡ単独の奉仕活動
７月：老人会の協力を得ての奉仕活動
８月：地区合同奉仕作業

地元の方・ＰＴＡ賛助会員の方・老人会の方が自主的に集まって応援してくれる。

ＰＴＡ奉仕作業は、本来大人の活動であるが、毎回多くの児童が参加し、危険の少ない作業の手伝いや休憩時の接待を通して感謝の気持ちを伝えている。

４　おわりに

金丸分校は、「前橋市立小中学校適正規模・適正配置方針」に基づき、「適正規模地区委員会」を発足し、児童の通学時の安全確保や緊急時への対応策等を十分検討しながら、多様な人間関係の中でさらなる児童の成長を図るため、本校と統合することが検討されている。

しかし、金丸分校は、地域の学校であり、地域との質の高い連携を図ることで豊かな心を持った児童が育っている。また、少人数指導の利点を生かした指導を行うことで確かな学力を身につた児童の育成が図かれると考えている。さらに、今年は地区内で多くの新生児の誕生があり、来年度は５名の新入生を迎えることになっている。

今後は、さらに分校の特長を生かした教育活動を推進し、分校の存続を願いたい。

校訓「知・恕・健」そして「さかくら」

東吾妻町立坂上中学校校長　**岩瀧　秀樹**

１　本校の概略

本校は、昭和２２年４月１日、学制改革により坂上村立坂上中学校として新設された。当初は小学校の一部を借用していたが、新校舎を昭和２４年に落成した。その後、平成３年に校舎を移転し、現在に至っている。

通学区域は非常に広く、校区の小学校も大戸・萩生・本宿・須賀尾・大柏木の５校を数えたが、昭和４７年に小学校は統合され、坂上小学校として中学校に隣接している。小学生は、統合と同時に多くの児童がスクールバス通学となった。中学生は、徒歩と自転車通学が主流であったが、最近は親の車による送迎に頼っている生徒も多い。自転車通学の生徒は、通学距離が長く坂も多いので電動自転車を利用している割合も非常に高い。小学校とは、給食調理場をはさんで渡り廊下で行き来できるので、小中の連携も行いやすい環境にある。

昭和３０年代には６００人を越えていた生徒数も少しずつ減少し、数年前からは１００人を割っている。それに伴って、学年も単級になり、普通学級３、特別支援学級１の状態が続いている。数年後にはさらに生徒数が減ることも予想されている。特別支援学級は「さかくら学級」の名称で親しまれているが、地区の中央にそびえる坂倉山から名付けられている。

２　学校経営計画（抜粋）

○　校訓　「知　恕　健」

知　知識を身につけ、知恵を働かせること

恕　思いやりの心を持つこと

健　健康でたくましい心身を鍛えること

○　教育目標

・基本目標　略

・具体目標（努力目標）　さかくら

さ	とく	豊かな人間性	（自立と協調のもと、他を思いやる心の醸成）
か	しこく	確かな学力	（基礎・基本の確実な定着のもと、問題解決能力の育成）
く	じけず	心身の健康	（健康な身体と困難に負けない心の鍛錬）
ら	しく	規範意識	（坂中生としての誇りのもと、善いことの実践）

３　実践の例

○　**個々の目標の設定**　生徒の学期ごとの目標は、校訓をベースにしている。知は学習面、恕は生活面、健は部活動で努力目標に設定している学年もある。ちなみに本校の部活動は、運動部のみである。そして心身の様々な事情で運動部に入れない生徒がいるときのみ、ＪＲＣ部が設置される。

○　**基礎学力コンテスト（知に関係した部分）**

本校は、学期毎に基礎学力コンテストを実施している。昨年までは、３学期初めの１回だけだったが、今年度から学期毎に実施している。テストの内容は、あらかじめ渡してある問題の中から、国語は漢字、数

学は計算、英語は単語を中心に出題する。各教科で合格点を設定し、合格点に達した者は優秀賞として表彰する。長期休業中などに努力を積み重ねることで学習した成果を実感させ、今後の学習の意欲付けとするために取り組んでいる。合格ラインは教科、学年によって異なるが、おおむね９５～１００点の範囲である。また合格ラインに達しない生徒には、補習をしたり再テストを行うこともある。

○　新入生との交流会（恕に関係した部分）

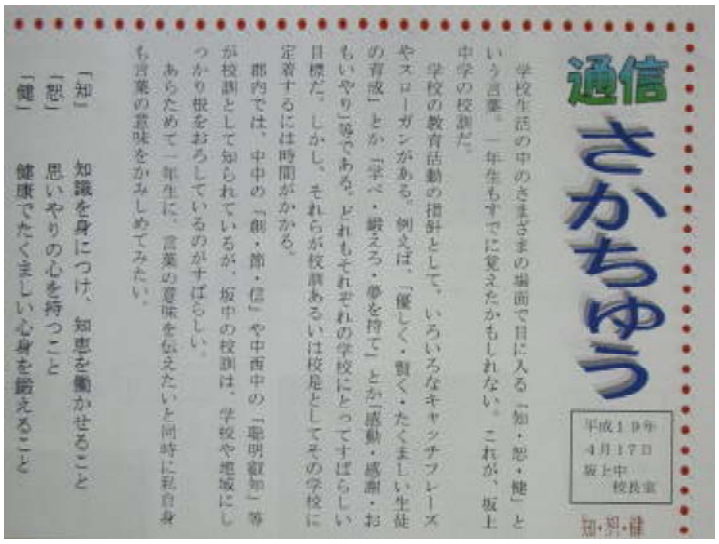
中一ギャップ等という言葉に代表されるように、中学生活への順応にとまどう生徒もいる。入学後一ヶ月経過した頃、中学校生活への不安やストレスを和らげるためにスポーツを通して異学年交流をし、全校生徒が新年度の学校生活を元気よく過ごせるように生徒会行事として行われる。新体力テストの５０ｍ走のタイムをもとに分けられた４チームによる全校リレーは特に力が入る。

○　１１分間走（健に関係した部分）

生徒の基礎体力（全身持久力）を高めたり、気力と体力を鍛えるために伝統的に行われている。部活動の開始前に１１分間校庭を走り、そのままスムーズに部活動に取り組めるようにしている。冬季は、体育館で行っている。

４　校長室通信の活用

本校に赴任して３年目になるが、学校回りだよりとしての「校長室通信」を週２程度発行している。生徒向けであったり、保護者向けであったり、内容は混在しているが、生徒の学校生活を紹介しながら学校経営の方針をＰＲしている。



通信
さかちゅう

平成１９年
４月１７日
坂上中
校長室

学校生活の中のさまざまの場面で目に入る「知・恕・健」という言葉。一年生もすでに覚えたかもしれない。これが、坂上中学の校訓だ。

学校の教育活動の指針として、いろいろなキャッチフレーズやスローガンがある。例えば、「優しく・賢く・たくましい生徒の育成」とか「学べ・鍛えろ・夢を持て」とか「感動・感謝・おもいやり」等である。どれもそれぞれの学校にとってすばらしい目標だ。しかし、それらが校風あるいは校是としてその学校に定着するには時間がかかる。

郡内では、中中の「創・節・信」や中西中の「聡明寛知」等が校訓として知られているが、坂中の校訓は、学校や地域にしっかり根をおろしているのがすばらしい。

あらためて一年生に、言葉の意味を伝えたいと同時に私自身も言葉の意味をかみしめてみたい。

「知」　知識を身につけ、知恵を働かせること
「恕」　思いやりの心を持つこと
「健」　健康でたくましい心身を鍛えること

知・恕・健

通信
さかちゅう

平成２１年
１月１４日
坂中校長室
No７４

知・恕・健

坂倉山頂より中学校を望む

学校の象徴である坂倉山に、昨年に続いて登りました。1月6日の午前中は、非常によい天気でした。

①

②

５　へき地の学校経営

本郡において、へき地でも平地でも学校経営に大差はないと考えられる。地域と生徒に恵まれていることに感謝しつつ、校長として職務に精励していきたい。

Ⅲ　学習指導の改善に関する実戦的な研究

児童の表現力を高める指導の工夫

～話し合いを取り入れた活動を通して～

沼田市立利根西小学校教諭　　**千明　浩己**

１　学校・地域の概要

本校は、標高７００ｍの山間地にあり、学校区には赤城山の神と日光男体山の神との神話で名高い「老神温泉」を有する。

全校７０名、PTA 会員数５３という小規模校である。父親が熱心に学校教育に参加し、協力してくれる家庭もある反面、欠損家庭が多く、中には欠損率５５％という学年もある。

２　主題設定の理由

明るく素直な児童が多く、学習に真剣に取り組むことができる。指示されたことに対して、真面目に誠実に取り組める児童が多い。反面、自分に対して自信がなく、声が小さかったり、言葉が続かなかったり、表現力が貧弱な児童も多い。２年間の国語の指導の取り組みにより、音読の声が大きくなったり、ノートに書いた自分の意見などを大きな声で発表できる子が増えてきている。しかし、教師や友達の意見を聞いたり、自分の意見を発表したりするというような基本的な学び方が身についていない児童も依然として見られる。自信を持って堂々と発表できない児童も各学年に見られる。

一昨年来、自己表現するための技術を身につけさせるために、まずは最も児童にとってハードルの低いと思われる「音読」に視点を当て、その効果的な指導法にはどのようなものがあるのか、研修してきた。その成果として、教室内での「音読」においては、その目標であった「その場にいる人全員に聞こえる声で読む」をほぼ達成しつつある。あいさつの声などもそれに伴い、大きな声が出せるようになってきた。昨年度は、さらに、自分の書いたものを「発表」できる児童をめざしてきた。教科書等に書いてある文章を音読するよりも、それはかなりハードルが高くなる。なぜなら自分の意見を一度ノートに書くという新たな表現力が追加されるからである。ハードルは高くなったが、どのクラスにおいても子ども達は、確実に「書く活動」に対して苦手意識が薄くなってきているし、また書く内容もレベルアップしてきている。それは、たくさんの作文コンクール関係の入賞者や日頃のノート指導、日記指導などからうかがえる。

しかし、体育館のような広い場や、大勢の人の前で「声を出す」ということになると、未だ課題が残る。簡単そうに見える「音読」の指導ではあるが、これも全員の児童に徹底するのは、困難な課題であることを実感している。研修を２年続けたが、劇的に変わるようなことはないのだと感じている。そこで本年度は、もっと日常的にさまざまな場面で「話し合いを取り入れた活動」を設定し、自己表現の機会を増やし、表現力を高めたいと考え本主題を設定した。

３　研究の概要

（１）　「話し合いを取り入れた活動」について

さまざまな教科や学年差に対応するために、「話し合いを取り入れた活動」について、以下のようにとらえ、共通認識した。

「話し合い」とは、司会、書記などを決めて行う「話し合い活動」に限定するわけでなく、「隣同士での発表・討議・討論」「班・グループの中での発表・討議・討論」「クラスの中での発表・討議・討論」等の日常的な授業行為を含めたものとして考える。

（２）　１人１時間の研究授業の推進

「表現力を高める児童の育成～話し合いを取り入れた活動を通して～」というテーマに沿った授業を、全職員が研究授業の中で、自らの指導法を具体化し提案した。

①　１学期の研究授業

６月１５日に３年生の理科の授業では、自分の仮説と理由を発表する研究授業を通して、「話し合いを取り入れた」活動について検討した。６月２９日には、２組（特別支援学級）の生活単元の授業を通して、先生方とコミュニケーションをとりながら、自分の意見を話す研究授業を通して、「話し合いを取り入れた」活動について検討した。

②　２学期・指導主事要請訪問 B での研究授業

１０月２２日の指導主事要請訪問 B では、司会・発表者等の役割を決めた「話し合い活動」を取り入れた国語の研究授業を通して、「話し合いを取り入れた」活動について検討した。

③　２学期・沼田市教育水準向上研究授業研究会（１１月２０日）での研究授業

１年生生活科の授業では、お年寄りとの交流活動における約束について全体で検討する研究授業を通して、「話し合いを取り入れた」活動について検討した。

３年生図工科では、発想を広げ協働作品の世界を感じあう授業の中で、鑑賞の場面に位置付けた感想を言い合う授業を通して、「話し合いを取り入れた」活動について検討した。

５年生体育科では、走り高跳びの動きを高めるために、ICT を活用し、互いにアドバイスし合う研究授業を通して、「話し合いを取り入れた」活動について検討した。

６年生外国語活動では、レストラン街で友達の意向を聞いたり、自分の意志を伝え合ったりする研究授業を通して、「話し合いを取り入れた」活動について検討した。

４　まとめと今後の課題

研究授業はもちろん、日常的に「話し合いを取り入れた活動」を意図的に取り入れた授業を通して、子ども達は自己表現力を高め、授業での発言なども多くなり、しっかり自分の意見を言えるようになってきている。特に、自分の意見をノートなどに書いたものを発表し合う授業では、それが顕著である。

反面、まだ相手の反応を確かめながら、目を見て意見を伝え合うというところまでは高まってきていない。今後も計画的な教育活動の中で、指導を継続し、児童の自己表現力を高めるよう力を尽くしたい。

Ⅳ　へき地学校における生徒指導の実践

〈１〉小学校

基本的な生活習慣の育成を重視した生徒指導

草津町立草津小学校長　　**黒岩　幸恵**

１　地域・学校の概要

草津町は群馬県の北西部に位置し、北には草津白根火山、西には２０００m級の山々が連なる高原地帯である。

本町は、日本三大名湯の草津温泉、草津国際スキー場、夏期国際音楽アカデミーの開催地等々として名声の高い所である。人口は7000人、山の中にありながら、都会的な雰囲気のある温泉観光地である。

本校では、教育目標(具体目標)に、「やさしく」「つよく」「かしこく」「すこやかに」を掲げ、基本的な生活習慣の育成に重点をおき、毎日の授業を大切にしながら、職員一丸となり教育活動に取り組んでいる。

２　生徒指導の重点

(1)　児童の特性

全校児童数 360 名。学級数は、特別支援学級２、第２学年３、他の学年はすべて２学級で、計１５学級である。学級人数も２０～３７名の編成でへき地校としては異例である。職員数は２７名（含町費３名）である。

児童は、明るく活発で社交性はあるが、地道な努力が苦手、規範意識が不足するなどの面が見られる。保護者はサービス業が多いが、ＰＴＡ活動も盛んで児童への読み聞かせ、スキー授業の講師、英会話活動、校内の環境整備と幅広く支援をしてくれる。しかし、家庭生活は、格差が大きく、家庭での様々な問題が学校生活に影響し、生徒指導面では課題が多い。

(2)　生徒指導の方針と努力点

自らルールを守ることの大切さを実感し、規範意識を高め、主体的に実践していく児童を目指している。また、教師や仲間とのふれあいを通して人間性豊かな児童を育成する。

以下は、本年度の努力点である。

①　「規律ある態度の育成に向けた取組」の達成に向けて、基本的な生活習慣の徹底に努める。

②　主体的に判断し実践していけるための基礎学力の向上に努める。

③　道徳や特別活動を通して人間性豊かな児童の育成に努める。

④　生徒指導体制を確立し、全職員で共通理解し、積極的な生徒指導の推進に努める。

⑤　家庭や地域、関係機関との連携に努める。

３　具体的な取り組み

(1)　指導体制の確立

①　生徒指導情報交換会の設定

以前は職員会議の中に、生徒指導情報交換を位置づけていたが、時間的な制約から、深まりのある情報交換ができなかった。そこで、月に１度定期的に情報交換の時間を設定し、職員全体で情報の共有ができるようにした。

② 特別支援教育・不登校児童への対応

特別支援学級に在籍する児童や、普通学級において特別な配慮を要する児童、また不登校の児童に対し、担任を補助する介助員を町費で雇ってもらった。1 日勤務と、半日勤務の２名である。重点的な支援が必要な児童のいる学級から配属し、欠席状況などで、臨機応変に対応ができるようにしている。

(2) 生活習慣の確立

① 「草津小よいこのやくそく」（項目数７生活習慣・項目数８学習習慣等の約束）の実践。

「草津小よいこのやくそく」を見直し、全職員で共通理解を図り、学校全体で取り組めるようにした。

自己評価表を作成し、自分の行動を振り返る場面の設定をする。月毎に、学級単位の集計も行い励みとする。

家庭からの理解・協力を得るために、チラシの配布、学級懇談会で話題に出すなどする。

② 児童会を中心としたあいさつ運動

年間２回、あいさつ週間を設定し、児童会のメンバーが正門前のあいさつ坂で、登校してくる児童に言葉かけをする。

③ 保健委員会を中心とした衛生検査やむし歯予防集会の実施

月１回、衛生検査を実施したり、むし歯予防集会で保健面からの生活習慣の改善を行っている。

(3) 学習指導面からの生徒指導

① 授業改善

校内研修の授業改善部が中心となり、提案する。授業の学習過程に、自力解決の場面、学び合いの場面を設定し、判断力・思考力を高める。

② 放課後サポート教室

学力が低位だが、家庭では学習環境が作れない児童を対象に、担任外の教師を中心に放課後個別指導に当たる。低位群の学力向上をねらう。

(4) 学級づくり・仲間作り

① QU 検査の実施と活用

1 学期に特別支援学級を除く各学級で、QU 検査を実施し、学級の特徴、担任の指導の型について把握し、よりよい学級にするために行うべきことで、実践可能なことを決める。

２学期終わりに二度目の QU 検査を行い、変容をみる。課題があれば、再度改善する。

② 縦割り団活動

赤城・榛名・白根・浅間の４つの団に全校児童が別れ、運動会の競技や応援合戦を行ったり、朝活動の時間帯に、団遊びを行ったりする。全校だけでなく学年間での団活動も授業の中で行い、こうした活動を通して、思いやりや協力の大切さを実感させると共に仲間意識を育む。

４ 今後の課題

(1) 家庭との連携を図り、児童のより一層の生活習慣の改善を図る。

(2) 児童一人一人が自分で考え、判断できる基礎学力を身に付けさせる。

(3) 児童理解・人間関係などの充実を図ると共に、地域との結びつきを密にし、地域で子どもが育つように働きかける。

＜２＞中学校

小規模校の特性を生かした生徒指導

沼田市立多那中学校教諭　**山浦　政彦**

１　地域・学校の実態

本校は、６０数年に及ぶ小中学校の併設校である。そして、校区は赤城山北面の高原に開け、標高 450 ｍより 850 ｍにわたり、沼田市の南東に位置している。地域は、多那、輪組、二本松の３行政区で、２１２世帯・人口７６８人(平成 21 年 4 月現在)よりなる。

ほとんどが農家で夏季は高原野菜の栽培、冬季は温室によるウド、イチゴ等の栽培が盛んで、機械化による大規模経営が進んでいる。

若い人たちの農業経営に対する関心は高く、農業後継者も安定している。社会体育協会、農業研究会、同窓会などの組織によって住民の協力体制が整い、人々の社会連帯意識が高い。

交通は、沼田市役所まで約 11 ｋｍ、大規模農道によって渋川、前橋方面にも通じている。昭和ＩＣの開設によって前橋、高崎、東京方面への距離が近くなった。

平成１７年の沼田市との合併により利根村立から沼田市立多那中学校となった。

２　今年度の生徒指導の方針と努力点

（１）　方針

①　小中生徒指導委員会及び全職員による生徒指導会議を定期的に設け、生徒指導に係わる共通理解に努めるとともに、生徒指導の未然防止に向けて、全校一致の指導体制を目指す。

②　小中学校及び家庭・地域との円滑な連携を図り、指導を総合的に行い、生徒指導の充実を図る。

（２）　努力点

①　教師と生徒の人間関係を構築し、自己存在感を持たせ、良さを認め伸ばす、積極的な生徒指導に努める。

②　挨拶・返事・時間厳守・言葉遣い等、「多那中学校生活の指標」の活用も含め、基本的な生活習慣の育成に努める。

③　小中合同の生徒指導委員会を設け、情報交換を密にし、「ぐんまの子どものためのルールブック 50」の活用を基に、生徒指導の重点化項目にそれぞれ取り組むとともに、家庭との連携の下、生徒指導を充実させていく。

④　全職員が部活動の担当になり、技術・体力と共に、心の成長にも配慮し、一人一人を尊重した教育部活動に努める。

３　具体的な取組

≪小中学校合同の生徒指導の取組≫

本校では、小中併設校という立地上の利点を生かし、生徒指導や体育行事等において連携や協働で取り組んでいる。児童・生徒は素直で生活態度もよく、教職員との人間関係も概ね良好であるといえる。問題行動や不登校等は皆無であるが、よりよい児童・生徒の育成と規範意識の育成を目指し、小中共通で生徒指導委員会を実施している。

（１）　生活指導の重点化

平成２０年度下半期から、小中学校が連携して生活指導の重点項目を設定し、生徒指導を行っている。重点項目は、「ぐんまの子どものためのルールブック５０」から教員が抜粋し、小中共通で４項目、校種別で１項目の計５項目を設定している。５番目の独自の項目として、小

学校では、お互いを高めあえる児童の育成を目指し、「友だちがよいことをしたらほめよう」を設定した。中学校では、自己を高められる生徒の育成を目指し、「勉強も運動も最後までやり抜こう」を設定した。（写真１・２）

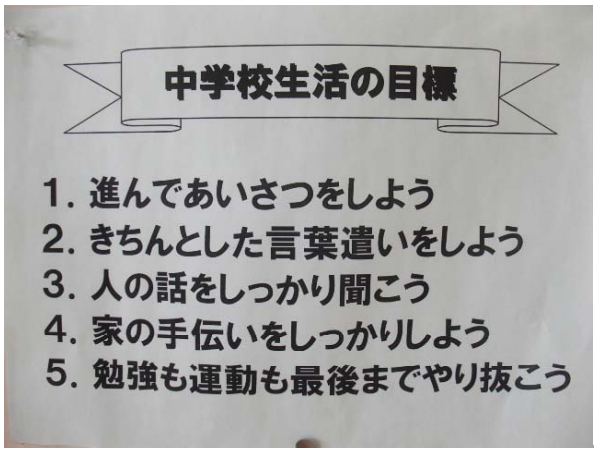


写真１　中学校の取組（ポスター）

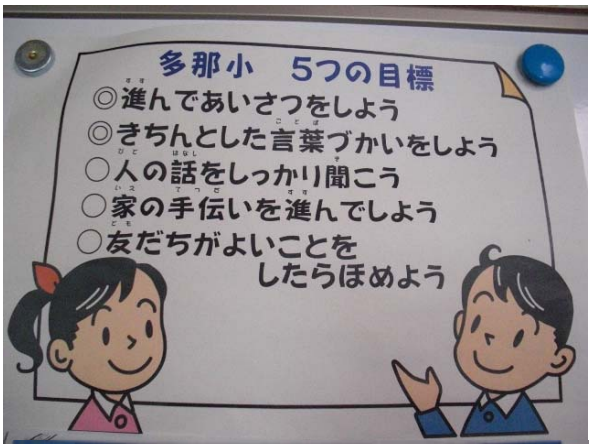
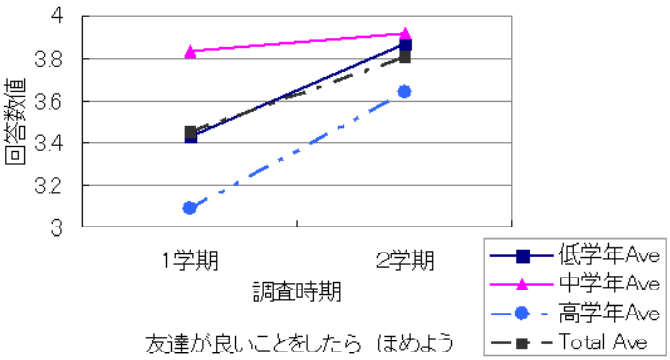


写真２　小学校での取組（ポスター）

５つの重点項目は、教職員からの調査結果をもとに生徒指導委員会で大枠を検討し、職員会議で共通理解を図った。平成２０年度は年度途中からの試験的な実施であったが、２１年度には年度当初から体制を整えて指導できるように、２０年度末の生徒指導委員会において、次年度の取組を概ね決定し、スムーズに引き継ぎができるようにした。

また、重点項目は教員が指導するだけでなく、児童会・生徒会が主体となり、啓発活動を行っている。ポスターを作成したり、月ごとの具体目標を設定したりして積極的に活動している様子が見られる。

実施を始めた頃は、「先生に言われるからやる」という様子が見られていたが、活動の継続を通して、児童・生徒がお互いを注意し合ったり、高め合ったりする様子が見られるようになってきた。子どもの実態や発達段階に応じて、今後も項目を精査しながら実施していきたい。



（２）　スクールカウンセラーの活用

小中合同の生徒指導委員会には、中学校配置のスクールカウンセラー（以下ＳＣ）の先生にも同席してもらい、専門家の視点からの助言を頂いている。また、少人数学級（中学校全校１９名、小学校高学年１４名）という利点を生かし、ＳＣとの個別面談を実施している。

個別面談の実施結果は、生徒指導主事・主任と学級担任に伝えられ、事後の生徒指導に生かせるように工夫している。また、ＳＣの先生が来校した際には、休み時間や放課後を使って図書館を開放し、気軽にＳＣの先生と話をできる場を作っている。小学生が昼休みに様々な話をしたり、放課後には中学生が相談に訪れたりする場面が見られるようになってきている

第　２　部

へき地学校教員研修のあゆみ

群馬県へき地教育研究大会　義務教育課長　挨拶

群馬県へき地教育研究大会　研究協議

Ⅰ　平成２１年度へき地学校教員研修の概要

群馬県へき地教育研究連盟研究部長
長野原町立西中学校長　**大前　博文**

１　平成２１年度へき地学校教育

平成２１年度の県内のへき地学校は、休校中の２校を含め 56 校、児童生徒数 4,254 名、教職員数 628 名である。へき地学校の児童生徒数の占める割合は、県内全体の 2.5 ％で、昨年と比べると校数は１校減、児童生徒数で 194 名の減、教員は９名減員した。

へき地教育研究連盟としては、へき地学校の小規模の利点や地域との緊密な連携を生かし、子どもたちに「生きる力」を身に付ける教育、個に応じた教育、豊かでたくましい心を育てる教育を推進してきた。

しかし、現在、へき地教育振興法施行規則の一部改正による級地の見直しが進められており、次年度からのへき地指定校の状況は厳しくなることが予想される。

２　活動方針

(1)　研究主題　「ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を築く 心豊かな子どもの育成」

(2)　運動方針

①　本連盟は、県教育委員会、市町村教育委員会、へき地教育振興会等と連携・協力を密にし、へき地教育の充実・発展に努める。

②　本連盟に総務・調査・研究部を置き、広報活動・研究事業の推進、研究成果の収録・発行等を実施する。

③　本連盟は諸活動を通して、へき地学校教職員の連帯・親睦、指導力の向上、教育の諸条件改善等に努め、へき地教育の一層の充実を図る。

(3)　活動内容

①　へき地関係教育諸情報の伝達及びへき地教育についての理解を深める広報「県へき連」を発行する。

②　へき地教育ブロック別実践研究集会等を開催し、研究実践を深め、へき地教職員の資質の向上を図る。

③　へき地教育研究大会を県教育委員会及び県へき地教育振興会と共同開催し、へき地学校における経営・指導上の諸課題について研究協議し、へき地教育の充実・振興に資する。

④　県教育委員会及び県へき地教育振興会と連携・協力し、へき地教育の諸課題と研究実践を収録した「板木」を継続発行し、へき地教育の一層の充実と発展に資する。

３　研究・研修の概要

(1)　へき地教育ブロック別実践研究集会の開催

・　Ａブロック（安中・高崎・前橋・多野・甘楽）　８月３日（月）：講演会、分科会
・　Ｂブロック（吾妻）　８月６日（木）：全国へき地教育研究大会報告、講演会
・　Ｃブロック（利根・沼田・渋川）　８月５日（水）：講演会、現地研修会（谷川岳）

(2)　第 58 回全国へき地教育研究大会鹿児島大会への参加　10 月 15 日(木)～ 16 日(金) 8 名参加

(3)　第 58 回群馬県へき地教育研究大会　11 月 10 日(火)　長野原町開催　（全体会）長野原町山村開発センター　（授業公開）第一小学校、応桑小学校、北軽井沢小学校、西中学校

(4)　広報「県へき連」第 66 号・67 号の発行

(5)　群馬県へき地教育研究資料「板木」第 58 集発行

Ⅱ　第５８回群馬県へき地教育研究大会

〈１〉概要

１　趣　旨　へき地学校の経営実践や授業実践についての研究協議を通して、群馬県へき地教育の改善・充実に資する。

２　大会テーマ　ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を築く 心豊かな子どもの育成
～へき地・小規模・複式学級を有する学校の特性を生かした学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～

３　期　日　平成２１年１１月１０日（火）

４　会　場　**【開会行事・全体会・班別研究協議】**長野原町山村開発センター
【公開授業・授業研究会】長野原町立第一小学校、長野原町立応桑小学校、長野原町立北軽井沢小学校、長野原町立西中学校

５　日　程

9:30 10:00　10:30　10:50　12:00　13:15 13:40　14:45

受付	開会行事	全 体 会	班別研究協議	昼　食 休　憩 移　動	受付 (午後)	公開授業	授業研究会
		・全へき連、関ブロ、県へき連等報告確認	・小学校Ⅰ班 ・小学校Ⅱ班 ・中学校			・第一小学校 ・応桑小学校 ・北軽井沢小学校 ・西中学校	・小学校低学年 ・小学校中学年 ・小学校高学年 ・中学校

10:45　14:25（30）　16:15

６　班別研究協議

	司　会	提　案	記　録	世話係	指導助言	場　所
小学校 Ⅰ班	高山小校長 大木　修	伊参小校長 小林髙義	六合小校長 髙橋俊昭	嬬西小校長 橋詰忠明	中部教育事務所 指導主事 黒澤ゆみ子	大会議室
小学校 Ⅱ班	甘楽第三中校長 井上　優	秋畑小校長 堀口世津子	西牧小校長 並木伸一	南牧中校長 茂木正好	利根教育事務所 指導主事 荒木富美子	婦人集会室
中学校	藤原中校長 石北直樹	片品中校長 新木延謹	利根中校長 川端　稔	多那中校長 富澤辰男	吾妻教育事務所 指導主事 桑原 武史	農林指導室

７　公開授業

会　場	教科等	学年	単元・題材名	指導者	場　所
第一小学校 （低学年）	算　　数	１年	たしざん	教諭 髙橋 秋子	１年教室
応桑小学校 （中学年）	道　　徳	３年	イルカの命と漁師の生活 ３－（２）	教諭 山﨑 澄枝	３年教室
北軽井沢小学校 (高学年)	外国語活動	５年 ６年	友だちの誕生日を知ろう	教諭 篠原 知洋 教諭 髙橋 礼子 教諭 黒岩 慎也 ALT Jonas Wetzel	多目的教室
西中学校	理　　科	２年	物質の変化	教諭 長井 隆行	理 科 室
	道　　徳	３年	選抜選手に　４－（４）	教諭 須藤 宣之	３年教室

８　授業研究会

会　場		司　会	記　録	世話係	指導助言者	場　所
第一小学校 （低学年）		吾妻：嬬東小 校長 篠原 妙子	吾妻：長央小 校長 中山 邦男	吾妻：坂上小 校長 中澤 和則	中部教育事務所 指導主事黒澤ゆみ子	多目的ホール
応桑小学校 （中学年）		吾妻：嬬西小 校長 橋詰 忠明	吾妻：六合小 校長 髙橋 俊昭	吾妻：干俣小 校長 乾 姫志美	利根教育事務所 指導主事荒木富美子	多目的室
北軽井沢小学校 （高学年）		吾妻：草津小 校長 黒岩 幸恵	吾妻：高山小 校長 大木　修	吾妻：田代小 校長 水出 正一	県教委義務教育課 指導主事 飯泉 尚士	多目的教室
西中学校	理科	吾妻：嬬東中 校長 黒岩 俊明	吾妻：嬬西中 校長 山野 邦明	吾妻：六合中 校長 小野塚則幸	県教委義務教育課 指導主事 黒澤 英樹	図 書 室
	道徳	吾妻：坂上中 校長 岩瀧 秀樹	吾妻：草津中 校長 篠原三千雄	吾妻：高山中 校長 木暮 秀利	吾妻教育事務所 指導主事 桑原 武史	食　　堂

〈２〉　提案要旨

《小学校１班》

社会性・人間性を養うとともに自信と活気の漲る子を目指した学校経営

中之条町立伊参小学校長　**小林　高義**

１　学校の概要

本校は、中之条町の中心部から北の５キロほどの所に位置している。校区には、国重要文化財や町のシンボル嵩山があり、歴史や自然の豊かな所である。今年度の児童数は、４２名で単学級４、複式学級１、特別支援学級１の６学級である。

本校は、児童数の減少により人間関係が固定化されてしまうため、これまで培ってきた交流活動を工夫し、社会性や人間性を養うとともに、授業や諸活動の中で達成感や自己実現を図ることで、自信と活気の漲る子どもを育成したいと考え、以下の取組を行っている。

２　実践の概要

(1) 社会性、人間性を養う交流活動（主な活動紹介）

○ 異校種間交流（幼稚園、管内小中学校、中之条高等学校）の推進と地域連携の推進。

・ 高校との交流:リンゴ栽培 動物ふれあい教室 水生生物調査 花の苗植え 稲作 しめ縄等。

・ 地域ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱとの交流:薩摩芋作り コンニャク作り 蕎麦作り 蕎麦打ち 読み聞かせ等。

○ 学校からの積極的交流:幼稚園での読み聞かせ 生活科授業への招待 交流給食　施設訪問。

○ 家庭と連携した読書活動の推進:保護者への図書館開放と全校で年間１，０００冊読破運動。

(2) 自信と活気を持たせる主な取組

①　基礎・基本の定着と向上を図る主な取組

・学習支援員を活用した国語・算数のＴＴや、きめ細かな授業を展開し、○付け等による確実な習得に努め、学習性達成感（できた・わかった等）を持たせる授業の推進。

・年２回の学力テストを実施し、定着が不十分な学習内容の補充指導の徹底。

・パワーアップ学習の推進：朝の５分音読タイム（毎朝８：３５～８：４０に詩、短歌、名作・古典等の一部の音読）や長期休業中に６日間約３時間程度の自主参加の学習実施。

・漢字・計算力アップシステムの取組：１年から６年までの漢字や計算を級別して当該学年までの習得を目指し、授業の始まり５分間や朝活動前に実施。

②　中之条かるためぐりマラソンの取組(スモールステップでの目標設定・達成感を持たせる)

「中之条かるた」を活用して、６年間で４５０ｋｍ（「１つのかるた」走破を１０ｋｍとして、達成者にシール、５０ｋｍごとに表彰する）走破を目指し、朝活動等で実施。

③　縦割り班活動の工夫（伊参ｱｽﾚﾁｯｸｶｯﾌﾟ：年４回の体育的大会の総合優勝団を決める取組）

全校を３団の縦割班に編成し、年間４回の体育的大会（１学期：ボール運動、２学期：運動会、長距離走大会、３学期：縄跳び大会）における活動を通して、体力の向上、団活動の活性化、高学年のリーダーシップの発揮による自信と活気につながる取組を実施。

３　成果と今後の課題

(1) 異校種間交流学習や地域連携は、多様な考え方を学び、人間性や社会性を培う上で是非とも必要な活動である。今後も交流方法や内容を工夫しながら推進していきたいと考えている。

(2) 認められ・ほめられながら一つ一つ目標を達成していく中で子どもは自信をもち、活気ある学校生活をおくっていると感じる。今後も、学習性達成感を味わわせるなど、本校ならではの授業の質的向上を目指すとともに、各種の実践の評価・反省から自信と活気の漲る子どもの育成を推進する取組となるよう改善策を文書化して、共通理解を図り、次年度へ備えたい。

《小学校２班》

自ら学び、心豊かでたくましい子の育成

～　小規模・複式学級の特性を生かした学校経営を目指して　～

甘楽町立秋畑小学校長　　**堀口　世津子**

１　学校の概要

本校は甘楽町の南西部に位置し、関東山地北端の静かな山間にある。児童数 31 名（１年生４名、２年生３名、３年生５名、４年生３名、５年生６名、６年生 10 名）で、複式３学級の小規模校である。児童の家庭は、ほとんどが三世代同居で、保護者や地域住民の学校に対する思いは深く、学校教育に対する協力を惜しまない。

２　主題設定の理由

本校の児童は、緑豊かな自然環境と地域の人はみな知り合いという人的環境の中で育っているため、素直で明るいが、のんびりして教師の指示や助けを待つ傾向があり、自ら学ぶという姿勢や心身のたくましさに欠ける面がある。そこで、小規模校だからこそできること、小規模校でしかできない教育活動を行うことにより、進んで学び、友達同士助け合い、何事にもねばり強い児童を育成したいと考え本主題を設定した。

３　実践の概要

（１）一部教科担任制

３名の教諭とマイタウンティチャーの専門性を生かして、社会・音楽・体育・理科を教科担任制とし、養護教諭も兼職発令を受け保健の授業を行う等、全職員で児童の教育に当たっている。このように毎日複数の教員が一つの学級の授業に出ているので、気になる児童等についてはすぐに職員室で情報交換ができ、全職員の共通理解のもと迅速な生徒指導にもつながっている。

（２）全校での業前活動

曜日ごとに毎朝、朝礼、サーキット運動、児童・音楽集会、ゲーム集会、読書を行っている。この 20 分間は、児童が主体的に取り組むことを目指して活動している。各種活動では、児童が話したり発表したりする機会を多く設定することにより、「自分の考えをわかりやすく伝えることができる児童の育成」をテーマにしている校内研修の実践指導の場とも考えている。

（３）体験活動

○昔から地域の特産物であるソバとサツマイモの栽培に、全校で取り組んでいる。地域の方、特に老人クラブの方に「畑の先生」として、春から秋まで継続して指導をお願いしている。

○「本物」の素晴らしさを実際に体験し感動を味わわせたいと、今年度は、尾瀬学校への参加や親と子のファミリーコンサートの実施、サッカー選手を招いた体育授業等を行っている。

（４）他校との交流

隣接する第三中学校とは長年にわたり、運動会や琴平山公園の下草刈り、学校保健委員会等を合同で開催している。外国語活動の時間と算数は、三中の教諭とのＴＴによる授業も行っている。また、今後の統合計画を視野に、小幡小との交流行事も実施し始めた。

４　まとめと今後の課題

一部教科担任制や中学校教諭とのＴＴ授業等から、授業に対する興味関心は高まり、楽しく取り組んでいる児童が多い（教育活動アンケートより）。様々な体験活動から心の成長も感じられる。しかし、苦手なこと困難なことに挑戦しようとする気持ちや自ら学ぶという姿勢はまだ不十分である。何事にも積極的に取り組み、向上心を維持させる指導や支援の工夫を今後も全職員で行っていきたい。そして、家庭や地域と連携協力して数多くの体験をさせ、いろいろな人と関わる機会を多く持たせたいと考えている。

《中学校班》

確かな学力・豊かな心を身に付けた生徒の育成

片品村立片品中学校長　**新木　延謹**

１　学校の概要

本校は一村一校であり、生徒数は現在１６７名で７学級（普６、特支１）からなる。村内４つの小学校を卒業した生徒が徒歩や自転車、路線バス、保護者の車で通学している。生徒は純朴であり、素直で明るく挨拶もよくできる。日々の学習や部活動等にも熱心に取り組んでいる。

平成１５年度から尾瀬高校、利根中学校との尾瀬地域連携型中高一貫教育を推進しており、尾瀬高校との職員・生徒の交流は盛んに行われている。

２　実践の概要

(1)　確かな学力の定着

○校内研修での取組・・・「自己の生き方を考え、主体的に学ぶ生徒の育成」を主題とし、ねらいと手だて、評価項目を明確にした授業、授業中の意見交換の場面の設定等を中心に指導過程の工夫改善に取り組んでいる。また、一人一公開授業により指導力の向上を目指している。

○少人数指導及びＴＴ・・・２名の特配を活用して全学年の数学と英語で少人数指導及びＴＴを実践している。

○尾瀬地域連携型中高一貫教育の取組

・定期的な交流授業→３年選択数学と選択英語で毎週木曜日に尾瀬高校の教諭とのＴＴを各２時間実施。３年の理科でも各クラス週１時間のＴＴを行っている。

・単元的な交流授業→各教科で年間２時間程度、尾瀬高校の教員とのＴＴによる指導を実施。

(2)　豊かな心の育成（保護者・地域との連携を中心に）

○１年文化財巡り・・・生徒は村内の４コースに分かれて、村文化財調査員の方からの説明を聞きながら関所跡や神社、石仏群、句碑等の文化財を巡る。

○ＰＴＡ親子ふれあい環境整備作業・・・親子で一緒に汗を流すことを通して親子のふれあいを深めるとともに、環境美化への意識を高めることを目的に実施。学校敷地内の除草を中心とした作業を行う。

○２年職業体験学習・・・職業体験を通して勤労の尊さと大切さを知り、勤労観や職業観を養うことで、自己の進路選択に役立てることを目的に実施。今年度は10月19日(月)～23日(金)の５日間、村内の保育所・老人ホーム・ホテル等、２５の事業所で受け入れていただいた。

○片中文化の日弟子入り講座・・・村の文化協会の方々等に講師になっていただき、生徒は受講する講座ごとに教室等に分かれて体験学習をする。今年度開設講座は書道、華道、俳句、わら細工、陶芸等あわせて１４、講師数は３５名。

○地域ふれあい書き初め大会・・・村の書道協会の方々１０名程の協力を得て毎年実施。生徒は体育館全面に広がり、それぞれ指定された文字を心を込めて書く。講師の方々は生徒の活動の様子を観察しながら、適宜アドバイスしたり示範したりする。

３　まとめと今後の課題

学校教育目標をふまえ、「かしこく、たくましく、しんけんに、なごやかに」［本気・根気・元気・勇気（優気）］をスローガンに掲げて生徒や職員に投げかけ続けてきた。

確かな学力に関しては、ＮＲＴや全国学力学習状況調査結果等いずれも全国平均を上回っていることなどから成果が上がってきているととらえている。

豊かな心に関しては、素直な心・思いやりの心・感動する心・尽くす心を持った生徒の育成を目指してきた。生徒達の表情や生活態度・人間関係、各種活動への取組等をみると少しずつではあるが着実に育ってきていると考える。

生徒の計画的な家庭学習習慣の定着と自主性の向上、地域等との連携を図った教育活動の充実が今後の課題である。

＜３＞公開授業・授業研究会　　①長野原町立第一小学校

１　学校の概要

本校は、半世紀以上にわたる八ツ場ダム建設問題にゆれる地区にあり、学校周辺でも道路の付帯工事や代替地の造成工事が急ピッチに進められている。現校舎は、ダムの湖底に沈む旧校舎から移転し、平成１４年に新築開校した。保護者の学校に寄せる期待は大きく、学校行事や各種活動への参加は大変協力的である。しかし、児童の減少が大きな課題であり、現在の児童数は２２名、完全複式３学級である。

２　研究大会に向けての学校の取組

本校では、２１年度の校内研修の研究主題を「少人数の中で伝え合う力を伸ばす指導の工夫」とし、国語科を中心にその力を身に付けさせ、他の教科や学級活動、学校行事等を検証の場と考えて研究を進めてきた。研究を進める過程で本校の目指す児童像を明確にし、具体的な方策を探ってきたが、学年によっては１人、２人の児童数のため、指導者は児童とのかかわり方や学習の規律の指導等で苦慮しながら工夫している場面も見られた。

本時は、１年生の算数「たしざん」の授業である。２人の児童と教師の関係は、ややもすると個別指導場面が多くなり、学習規律が疎かになりやすいと考える。そのような状況の中で、加法の計算の仕方を学習する過程において、具体物や数の操作方法、計算の手順等を言葉で表現する場面を設けることにより、国語科で培った力を生かそうと取り組んだ授業であった。

３　授業公開・授業研究会の様子（指導案も含む）

小学校低学年部会（算　数）　　授業提案者　第１学年　指導者　髙橋　秋子

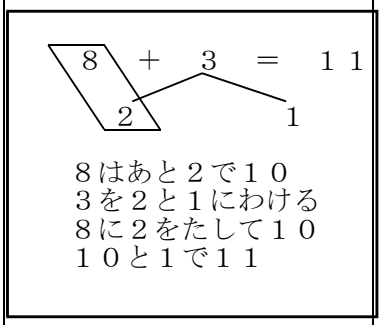
（１）　本時の学習

①ねらい

加数が被加数より小さい１位数どうしの繰り上がりのある加法で、前時の学習を参考にしながら、ノートにやり方を書いたり、それを使って説明したりする活動を通して、加数分解の方法についてまとめることができる。

②展開

学習過程	主な学習活動・発問 *予想される反応	評価に対する支援及び留意点 ◎全体への支援及び留意点 ●個に応じた支援及び留意点	学習活動における評価
つかむ 5分	1．本時の問題を把握する。 今日は、８＋３のやり方を考えて、書いてみましょう。どんなときに、８＋３をしますか。	◎8+3を板書する。	
	8+3を使う場面を考え、発表する。	◎8+3を具体的な場面で捉える（口頭）とともに、ブロックを並べる。児童にも同様に並べるよう指示する。	
見通す	2．前時までの学習をふりかえりながら、9+4の計算と比較して、見通しをもつ。	◎9+4の計算の仕方を「既習事項カード」で掲示しておく。 ◎９＋４の式と比較し、似ていることを確	

5分	*どっちの式も前の数のほうが大きいな。 *答えが10より大きくなりそうだ。	認することで、計算の仕方に見通しをもてるようにする。	
考える １５分	３．各自、自力解決する。解決方法をノートに書く。  *10のまとまりを作って考えよう *ブロックでやってみても、11になったぞ。	●自力解決でつまずいている児童には、ブロック操作を勧め、個別に指導する。 ●１０のまとまりを作らないで計算している児童には、既習事項カードを示し、１０のまとまりを作るやり方を考えられるようにする。 ●早く自力解決ができた児童には、ブロック操作で計算の仕方を確認するよう指示する。その後、類似の問題を与える。	㋟繰り上がりのあるたし算のしかたについて，10のまとまりに着目して考えている。
まとめる １５分	４．考え方を発表し合い、計算の手順を確認する。	◎話す声の大きさや聞く態度について注意を促す。 ◎ノートに記述したことを基に説明をするように促し、児童の発表にそって、計算の手順を板書にまとめる。被加数の方が大きい時には、9+4と同じ方法でできることや、10のまとまりを作るよさに触れる。	㋠加数分解による計算のしかたを理解している。
振り返る 5分	５．加数を分解する繰り上がりの計算方法が分かったか振り返る。	◎それぞれの自己評価を認め、自信が持てるよう声をかける。 ●自己評価の低かった児童や学習の過程でつまずきの見られた児童には、次時の学習で個別指導をする。	・わかった ・大体よいが、少し心配 ・よく分からない

（２）　授業研究会等の様子

児童２人でも、授業の形態がとれることを学んだ。児童と教師との距離が近すぎるので、児童が自分で考える時間を確保するよう、教師は意図することが必要である等の意見交換がなされた。最後に黒澤指導主事から、日頃のノート指導が学びの素地を作ること、きめ細かな指導とは、きめ細かく配慮された授業であるとの指導助言をいただき、研究会は終了した。

〈３〉公開授業・授業研究会　　②長野原町立応桑小学校

１　学校の概要

本校は、長野原町の南西に位置する浅間山の裾野にあり、標高９５０ｍの高地には、から松を主とする造林地帯と約６００ ha の耕地に、約４４０世帯、人口約１２００人の高原野菜づくりを中心とした農家集落がある。近年、別荘地として見直され、施設を含め、造成が進んでいる。年間の平均気温は８．４度で、冬季、山を越えて吹き付ける風雪は凍てついて厳しいものがある。児童数は６４名、学級数６学級である。

２　研究大会へ向けての学校の取組

本校では平成２１年度校内研修の研究主題を「自分の考えをもち、伝え合える児童の育成―各教科等における言語活動の充実を通して―」として、各教科等の指導において言語活動を工夫しながら授業改善に取り組んだり、言語環境を整えたりすることで、児童の思考力、表現力を高め、伝え合える児童を育成しようと研究をすすめてきている。これまでに行った研究授業は、５年担任の英語活動、６年担任の音楽、１年担任の算数、２年担任の国語である。いずれも、①全教職員による指導案検討　②研究授業　③授業研究会等を行い、研究を深めてきた。今回の道徳の研究授業についても、言語活動の充実を目指し、考えたり、自信をもって発表したりできるようにするために、ワークシートの工夫が試みられ、また、考えを出し合い、話し合う活動を通して、友達の様々な考えに触れさせ、考えを深めさせる試みがなされている。

３　授業公開・授業研究会の様子（指導案も含む）

○　小学校中学年部会（道徳）　　授業提案者　　第３学年　　指導者　　山﨑　澄枝

○　主題名：ほんとうの友達　　２－（３）信頼・友情

　　資料名：「なかよしだから」（出典：東京書籍「明るい心で３」）

○　本時のねらい：仲良しの「たけし」のことを考えて安易な頼みを断った実（みのる）の葛藤を知り、実（みのる）が教えなかった理由を考えることを通して、真の友情を育もうとする心情を育てる。

○　授業研究会では、「児童の実態に合わせて資料をアレンジし直したことは、すばらしい。」「絵やフラッシュカードの提示が理解を深めるのに有効だった。」「資料の扱い方については、今回のように資料を与えずに読み聞かせる方法と、資料を与えて読みながら理解を深める方法が考えられる。」など、活発な意見交換がなされた。

〈本時の展開の一部〉

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	時	指導上の留意点
導入	１．友達がいてよかったと思った時は、どんな時かを出し合う。	・遊んでいる時 ・忘れ物をした時 ・分からないことを教えてもらった時	５分	・日常的な場面での友達との関わり方を想起させる。 ・事前にとった実態調査（１）の結果を見せ、発言を補う。
展開前段	２．資料「なかよしだから」を読んで実（みのる）の気持ちを考える。 ・資料１を読む 実（みのる）は、たけしに宿題	・困ったな。 ・教えなければ怒るだろうな。 ・どうしよう。	20分	・自分だったら、どうするかを考えさせることによって、仲良

	の答を教えてと言われてどう思ったでしょう。 ・答を出し合う。	・断るとけんかになるから教える。 ・教えないとたけしが先生に叱られるから教える。 ・教えるのは悪いことだから教えない。 ・たけしのためにならないから教えない。		しの友達の頼みを聞くべきかどうか葛藤している実(みのる)の気持ちに気づかせる。
	・資料２を読む 実(みのる)は、なぜ、「なかよしだから、なお教えられないよ。」と言ったのでしょう。（怒っているたけしを見て、どんな気持ちだったでしょう。 ・ワークシートに書く。 ・考えを出し合い、話し合う。	・宿題は自分でやるものだから。 ・教えるとたけしの勉強にならないから。 ・分からなくなって、たけしがこれから困るから。 ・これからも仲良しでいたいから。 ・やっぱり教えた方がよかったかな。 ・いいことをしたのに、たけしは嫌なやつだな。 ・早く機嫌を直してくれないかな。 ・それでも、教えなくてよかった。		・実が言いたいことをよく考えさせ、真の友情を育てていくうえで大切なことに気づかせたい。 ・書き始められない児童には、教えるとどうなるかを考えさせる。 ・なかなか機嫌をなおさないたけしを見て「実(みのる)はどんな気持ちになったか。」「後悔はしなかったのか。」等の投げかけをし、考えを深めさせたい。
	・最後の段落を読む。 もし、たけしくんがわかってくれなかったらどうだったでしょうか。 ・考えを出し合う。	・いやだな。 ・このまま、ずっとけんかになったらどうしよう。 ・わかってもらえないなら、教えた方がよかった。 ・わかってくれなくても、正しいことをしたからしょうがないな。		・「教えた方がよかった。」に偏った場合は「正しいと思う考えを曲げた方がよいのか。」投げかけ、より高い価値に気づかせたい。
展開後段	３．友達のことについて自分をふりかえる。 これまで自分は友達に対してどうだったか、これからどうするかも入れて、実(みのる)に手紙を書きましょう。 ・グループで読み合う。	・実(みのる)君へ 友達が怒っても、友達のことを考えて断れてえらいね。僕は今まで友達が間違っている時も言えなかったけど、これからは言うようにします。	15分	・実(みのる)の友達への関わり方と自分の友達への関わり方を比べるて振り返らせる。 ・学習前の自分を想起しやすいように、事前にとった実態調査（２）の結果を見せる。
終末	４．絵本「ともだち」を読む。		５分	・本時に関わる本を読み、友達を大切にしようという思いを高める。

＜３＞公開授業・授業研究会　　③長野原町立北軽井沢小学校

１　学校の概要

本校は、上信越国立公園の主峰「浅間山」の北東に位置し、標高１１００ｍの高原にある。農業と観光が主な産業であり、児童は明るく素直で、保護者も学校に対して協力的で、子どもの教育にも熱心である。現在の児童数は９５名で、通常学級６、特別支援学級１、合計７学級である。

２　研究大会に向けての学校の取組

本校では、校内研修の研究主題を「自分の力を伸ばし、生き生きと学習に取り組む子の育成」、とし、国語科を中心に読解指導の研究を進めてきている。また、外国語活動も同時に研修計画の中に位置づけ、研究を進めてきた。この取組のひとつとして、本研究大会において、多くの方に授業を観ていただき、ご指導を頂くことで、より一層研究が深まればと考え、授業を公開することとした。

３　授業公開・授業研究会の様子（指導案も含む）

小学校高学年部会（外国語活動）授業提供者　　あさま学級　篠原知洋　第５学年　髙橋礼子
第６学年　黒岩慎也　ＡＬＴ　ジョーナス

５、６年（あさま学級を含む）合同授業で外国語活動の「友だちの誕生日を知ろう」 教材：英語ノート２（文部科学省）の授業公開であった。主な授業の展開は以下の通りである。

また、授業の視点として、「チャンツやゲーム性のある活動を取り入れ、楽しみながら基本的な表現を繰り返したり、注意深く聞いたりすることで、会話に必要な表現方法に慣れ親しむことができ、能動的なコミュニケーションへの自信を深めることにつながるだろう。」を取り上げ、そこに着目して、本時の学習を行った。

（１）　本時の学習

①ねらい

When is your birthday?（**My birthday is** ○○月の名前）という表現を用いて、自分や相手の誕生日について尋ねたり答えたりする。

②展開

過程	学習活動	時間	指導の流れや留意点	評価項目
ｕｐ・挨拶	CD に合わせてウォーミングアップをする。 挨拶をする。	３	・児童の好きな CD の曲「10steps」に合わせ、体を動かし、ウォーミングアップをすることで、リラックスした雰囲気作りをする。	
復習１	チャンツで月名と日付の言い方の練習をする。	１０	・最初は **month card(1~12) nunber card(1~31)**を掲示しながら、ALT の発音について全員で月名の言い方を確認する。（日付の言い方も同様にする。） ・団別の輪を作り、チャンツを用いて「月名」「日付」の言い方を練習する。（輪の中に学級担任、ALT が入り活動をサポートする。）	

復習２	カルタゲームをする。 ① **month** カルタを並べる。 ② **"When is your birthday?"**と児童全員が問いかける。 ③児童の問いかけに対して、**My birthday is ～** と ALT が答える。 ④月名を注意深く聞き、カルタを拾う。	１０	・学級担任と ALT でデモンストレーションを行い、ゲームのやり方を思い出す。 ・４～５人のグループに分かれ、「**month** カルタ」を行う。 **"When is your birthday?"** を何度も繰り返し発声することで、慣れ親しませる。 ※カルタは、１月が３枚あるなど複数用意して、英語の聞き取り能力だけで勝敗が決まらないように配慮し、ゲーム性のあるものとする。	
展開	・活動の仕方を知り、友達の誕生日を尋ねたり、自分の誕生日を答えたりするコミュニケーション活動を行い、プリントに友達の誕生日を書き込む。	２０	友達の誕生日を聞き合う活動をすることを伝え、学級担任と ALT がデモンストレーションを行い、活動の仕方を伝える。 **"Hi.rock,scissor,paper.one,two,three.** **"who won?** ジャンケンに勝った方が先に質問する。 **"When is your birthday?** **"My birthday is ～"** **"Thank you"** ※担任が呼名し、その児童の誕生日を他の児童が答える活動を通して、一人一人の存在の大切さに気付く活動にしたい。	慣れ親しんだ表現を用いて、自分や相手の誕生日について尋ねたり答えたりしている。（観察・プリント点検）
挨拶	・本時の振り返り ・挨拶をする **Good-bye.See you.**	２	主に英語を使おうとする態度やコミュニケーション活動への取組みの様子などを評価し、次時への意欲を高めるようにする。	

（２）　授業研究会等の様子

全体的な感想として、児童が楽しく生き生きと活動していた。本時の視点に着目すると、その手段は有効で目的に沿ったものであり、教師側のねらいが達成できた。また、子どもの活動も能動的に行われ、活気ある授業展開であった。協議の中で議論された、英語の発音については、あまり重視しないで、慣れ親しむことに重点を置くことが大切であることが確認された。また、他の教科でもコミュニケーション能力を高めることの必要性も話し合われた。

＜３＞公開授業・授業研究会　　④長野原町立西中学校

１　学校の概要

本校は、吾妻郡の南西部、長野県との県境、浅間山の麓(標高 980 m)に位置する生徒数８３名、学級数４学級(特別支援学級１学級)の小規模校である。今年度は、学校創立６０周年目にあたり、また老朽化した体育館の建て替え工事を行うなど、節目の年に当たっている。

生徒は、豊かな自然環境の中でのびのびと育ち、明るく素直である。また、少人数であるためお互いに助け合おうとする関係が比較的良くできている。保護者は、農業や酪農に従事する兼業農家が比較的多く、学校の諸活動に大変協力的である。

２　研究大会へ向けての取組

本校では、校内研修の研究主題を「自ら学び自ら考え、生き生きと活動する生徒の育成～自他を認め合い、高め合う学習指導の工夫～」として、授業改善を中心に研究を進めてきた。特に、授業は、生徒一人一人に成立するものであるが、自他を認め合い、高め合う(学び合う)ことを通して、一層確かなものになるものと考え、校内研修として掲げたテーマの具体的な姿、及びそのプロセス「自他を認め合い、高め合う学習指導の工夫」を実践してきた。

今回公開した授業(理科、道徳)は、グループ学習を通して一人で分かるのではなく、皆が考えながら分かるようにしたり、生徒のコミュニケーション意欲を高めるため、生徒同士の関わり合いを深める指導を行ったりと、生徒同士の働きかけ合いを学習に結び付ける手立て・教材・学習内容等、質的な側面から構想することに力を入れてきた。

３　公開授業の概要

(1)　理科（２年）　　単元名「物質の変化」　　指導者　長井　隆行

①　本時のねらい　　炭酸水素ナトリウムを熱すると、別の3つの物質に分解されることを実験により確かめることができる。

②　授業の視点　　デジタルコンテンツの利用で正確な実験をさせることにより、筋道を立てた考察が出来るであろう。

③　本時の展開（一部）

ねらい（時間）	生徒の活動（指導上の留意点及び評価等は省略）
1　本時のねらいと活動内容を確認する。(10 分) 2　炭酸水素ナトリウムを加熱し、変化を調べる。(25 分) 3　考察を行う。(15 分)	○前時の活動で考察したことを発表する。 ・炭酸水素ナトリウムはどんな気体を発生したのだろうか。 ○熱っすることによって、気体が出ることを確かめ、それが何であるか突き止める。 ・水素だとしたら、マッチの火でポンと音を立てて燃えるに違いない。 ・二酸化炭素だとしたら、石灰水を白く濁らせるだろう。 ○液体を塩化コバルト紙を用いて調べる。 ○熱する前と熱した後の物質を比較することで、変化したことに気づく。 ・水への溶け方も、フェノールフタレインの反応もちがうだろう。 ○炭酸水素ナトリウムを熱することで、3 つの物質が生じたことを指摘する。 ○カルメ焼きがふくらんだ理由を指摘する。 ・二酸化炭素が発生したから、カルメ焼きは膨らんだに違いない。

④　授業研究会の協議の概要

長井教諭からのデジタルコンテンツの活用と学び合いをテーマに授業に取り組んだとする授業説明の後、協議においては、そのコンテンツの利用が有効であり、生徒の意見や活動が素晴らしかったとする意見が多数出された。指導助言者である黒澤指導主事からは、「実験が素晴らしかった。」「考察が良かった。」とするお褒めの言葉をいただいた。また、地域や自然の教材化や観察・実験の充実等へき地教育でできることについてのご示唆をいただいた。

(2)　**道徳（３年）**　　題材名「選抜選手に」　　指導者　須藤　宣之

①　本時のねらい　　自分が属する集団の意義を理解し、目標を達成するために自己の責任を果たし、集団生活の向上に努めようとする心情を育てる。

②　授業の視点　　自作のモラルジレンマ資料を用い自己の身近な問題について考えることで､集団における個人の役割と責任について気付くことができるであろう。

③　本時の展開の一部（指導上の留意点等は略す。）

時間	学習活動	主な発問
5	**【気付く･つかむ】** ○文化祭での活動を写真や作文を使って振り返る。	・文化祭での体験を思い出してみましょう。
１０	○資料を範読する。 ○４～５人編成のグループを作り、意見交換を行う。 ○指名し、グループの話し合いの様子を発表する。	・もし、あなたが隆史だったら、劇に出演することと選考会に出ることのどちらを選びますか。また、その理由は？
１０	○その後の話を読み、劇への参加を選んだ主人公の気持ちをワークシートに記入する。 ○記入したものを発表する。	・隆史を舞台に立たせたものは何だったのでしょうか。
１０	**【深める･見つめる】** ○自分が所属している集団での経験を振り返る。	・今まで、所属する集団で、自分が果たさなければならない責任などで、悩んだことはありますか。そのとき、どんなことを考えましたか。 ・あなたは「隆史」からどのようなことを学びましたか。
１０	○発表する。**【広める】** ○「隆史」の考え方について感じたことや考えたことをワークシートに記入し、これからの自分についての考えを深める。 ○記入したことを　発表する。	
5	○教師の体験を聞く。	

③　授業研究会の協議の概要

須藤教諭から、集団としての成長が高まることを願って今日の授業を行ったとする授業説明があった。その後の協議では、生徒が生き生きと発表し合い、充実したグループワークが成されたとする感想をいただいた。また、自作資料の素晴らしさや提示の仕方が話題になった。指導助言者である桑原指導主事からは、「教師の思いが教材を通して生徒の気付きにつながった。」「資料から離れてからの振り返りが大切である。」等のご指導をいただいた。

Ⅲ　へき地教育ブロック別実践研究集会

〈１〉　Ａブロック

１　趣　旨　　Ａブロックのへき地学校に勤務する教職員が集まり、地域の特性を生かしたへき地教育の推進を図るため、教職員の研修を深め、指導力の向上に役立てる。

２　主　催　　群馬県へき地教育研究連盟　Ａブロックへき地教育研究連盟

３　後　援　　群馬県教育委員会　群馬県へき地教育振興会　安中市教育委員会

４　期　日　　平成２１年　８月　３日（月）

５　会　場　　安中市文化センター

６　参加者　　Ａブロックのへき地学校教職員他　１３３名

７　日　程

（１）　受　　付　　８：４５～９：００

（２）　開会行事　　９：００～９：１５　　（司　会）　Ａブロック書記　　堀口世津子

○ 開会のことば　　Ａブロック副会長　小林　　勝

○ あいさつ　　Ａブロック会長　　有阪　俊人

○ 来賓あいさつ　　安中市教育委員会教育長　中澤　四郎　様

○ 閉会のことば　　Ａブロック副会長　小林　　勝

（３）　講 演 会　　９：１５～１０：１５

○ 講師紹介　　安中市立上後閑小学校長　瀧澤　邦夫

○ 演　題　　「人権感覚をみがくために」

○ 講　師　　安中市保護区 保護司会長　元安中市立第一中学校長　　小出　海順　様

○ 謝　辞　　安中市立細野小学校長　　中津瀬　隆

（４）　諸連絡・会場移動　　１０：１５～１０：３０

（５）　分 科 会　１０：３０～１１：３０　　（各分科会ごとに解散）

［分科会発表･研究協議提案の学校名およびテーマ］

○ 小学校低学年　　学校名 ⇒ 高崎市立倉渕中央小学校
　　テーマ ⇒ 共に学び合い、進んで自分の思いを表現する児童の育成

○ 小学校中学年　　学校名 ⇒ 安中市立細野小学校
　　テーマ ⇒ 自分の考えを、生き生きと伝え合う子どもの育成

○ 小学校高学年　　学校名 ⇒ 神流町立万場小学校
　　テーマ ⇒ 高学年児童のリーダーシップの育成
　　～縦割り班活動を通して～

○ 中　学　校　　学校名 ⇒ 甘楽町立第三中学校
　　テーマ ⇒ 実験結果をもとにして、主体的に考察できる生徒の育成

８　まとめ

前半の講演会では、講師先生のへき地学校勤務時の体験談を交え、具体物を提示して、人権感覚のチェック方法・今の子どもたちの心情・へき地だからこそできる思いやりの実践等をわかりやすくご講演いただいた。参加者は、興味深く笑顔をもって視聴していた。

後半の分科会では、最初に、上記４校の各テーマに沿い、各学校の実践紹介を行った。そして、分科会参加者（約３０～５０名）の質問や具体的な取り組みを含めた研究協議が熱心に行われた。へき地学校において、明日からの教育活動に生かせる実践研究集会であった。

（文責　安中市立坂本小学校長　有阪　俊人）

〈２〉Ｂブロック

１　趣　旨　地域の実態に即したへき地教育の推進を図るため、教職員の研修を深め、資質向上を図る。

２　主　催　群馬県へき地教育研究連盟　吾妻郡へき地教育研究会
吾妻郡東部・西部へき地教育センター

３　期　日　平成２１年　８月　６日（木）

４　会　場　吾妻郡生涯学習センター

５　参加者　吾妻郡へき地学校教職員他　１５０名

６　日　程

（１）受　　付　　１階ホール前　１３：３０～１３：５０

（２）開会行事　　１３：５０～１４：１０

○開会の言葉

○へき地教師の歌斉唱

○あいさつ　　吾妻郡へき地教育研究会　会　長　　西脇　　進

○来賓祝辞　　吾　妻　教　育　事　務　所　長　　小池　明夫　様

嬬恋村教育委員会教育長　　萩原　良一　様

中之条町教育委員会教育長　　唐澤　正明　様

（３）参加報告　　１４：１０～１４：３０

平成２０年度全国へき地教育研究大会山梨大会参加報告

嬬　恋　村　立　干　俣　小　学　校　　高木　茂　教諭

～　休　　憩　～

（４）講演会　　１４：４０～１６：１０

○演　題　　「宇宙ってすごい」

○講　師　　元宇宙開発事業団技術参与　　野村　茂昭　様

（５）閉　会　　１６：２０

７　参加報告の概要

○会場校　　上野原市立秋山小学校（児童数９５名　７学級　職員数１５名）

○研究主題　心豊かに　たくましく生きる　あきっ子の育成
～食育の取組を通して～

○研究の内容 ①理論研究（食育の意義、諸計画の見直し）
②授業研究（学級活動を中心とした授業改善、養護教諭等とのＴＴ）
③環境整備（展示コーナーの工夫）
④家庭・地域との連携（地域人材の活用、農業体験、調理体験）

○公開授業　全校学習発表会　「秋山探検隊～おつけ団子を中心に」
「秋山歴史探検隊～秋山の米つくり」

８　講演会の概要

壮大な宇宙の誕生からその成長の過程、現代までの歴史そして人類の飽くなき挑戦など、限られた時間の内容が濃くスケールの大きいお話であった。ノーベル賞を受賞した小柴博士のニュートリノや南部・小林・益川博士の対称性のやぶれは、宇宙創造の大本に迫る研究であることや長い歴史を持つ宇宙については分からないことが多く、宇宙の不思議についてのお話であった。　　（文責　嬬恋村立鎌原小学校長　　西脇　進　）

〈３〉Ｃブロック

１　趣　旨　利根郡・沼田市・渋川市のへき地小・中学校に勤務する教職員がへき地の特性を生かす教育について研究するとともに、谷川岳天神平の自然を現地研修し、教職員の資質の向上を図る。

２　主　催　群馬県へき地教育研究連盟　利根沼田渋川へき地教育研究会
利根郡へき地教育センター

３　後　援　群馬県教育委員会　群馬県へき地教育振興会　みなかみ町教育委員会

４　期　日　平成２１年８月５日（水）

５　会　場　みなかみ町立幸知小学校　谷川岳天神平

６　参加者　利根郡・沼田市・渋川市のへき地小・中学校に勤務する教職員　２３名

７　日　程

（１）受付　８：１０～８：３０

（２）開会行事　８：３０（幸知小学校体育館）

①　開会
へき地教師の歌「太陽となろう」

②　あいさつ
・群馬県へき地教育研究連盟副理事長　富 澤　辰 男
・みなかみ町教育委員会教育長　登 坂　義 衛　様
・利根郡へき地教育センター所長　関 谷　丈`次　様

③　日程説明

④　閉会

（３）講演　８：４５～９：１５

・講師紹介　幸知小学校長　原 澤　和 弥
・講演　湯桧曽郵便局長　阿 部　利 夫　様
演題「谷川の植物」

（４）休憩・移動　９：１５～１０：００
（各自乗り合わせ等）

（５）現地研修　１０：００～１１：３０
・谷川岳天神平

（６）閉会行事　１１：３０～１１：４５
・講師へのお礼の言葉
幸知小学校長　原 澤　和 弥

（７）解散　１１：４５

８　まとめ

利根沼田地方に住む人々にとって谷川岳は、神々しくもありがたい山である。その中腹にある天神平までロープウェイで登り、周辺の植物を観察する機会に恵まれた。阿部利夫先生が植物の名前をユーモアを交えながら、命名の由来を教えてくれ、楽しいひとときを過ごすことができた。今回の研修をとおして、山登りの魅力を一つ加えることができた。

（文責　みなかみ町立幸知小学校長　原澤　和弥）

Ⅳ　第５８回全国へき地教育研究大会（鹿児島大会）

〈１〉概要報告

長野原町立西中学校長　**大前　博文**

第５８回全国へき地教育研究大会が、文部科学省、鹿児島県教育委員会、全国へき地教育研究連盟等の主催により、平成 21 年 10 月 15 日(木)～ 16 日(金)の２日間にわたって、「ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を築く心豊かな子どもの育成」を研究主題に、「とどけよう　鹿児島から　南北６００キロの教育」を大会のスローガンに、鹿児島県下で開催された。

１日目は､鹿児島市の｢宝山ホール｣(鹿児島県文化センター)において､全国のへき地校から 600 名を越える教職員が参加し盛大に開催された。本県からは、校長・教諭等８名が参加した。午前の全体会に続き、午後は全国研究課題を踏まえた８つの分散会が開かれた。２日目は、10 の分科会会場において公開授業が行われ､授業参観後の分科会では研究発表や熱心な協議が行われた。

第１日（10月15日）「全体会・分散会」

全体会開会式は、開会の言葉に続き、国歌及びへき地教師の歌「太陽となろう」を斉唱し、文部科学省初等中等教育局教育課程課長、鹿児島大会長・鹿児島県教育委員会教育長、全国へき地教育研究連盟会長の主催者挨拶があり､来賓を代表し鹿児島県知事から歓迎の言葉をいただいた。

基調報告では、全国へき地教育研究連盟研究部長から研究主題「ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を築く心豊かな子どもの育成」を踏まえた「第７次長期５か年研究推進計画１年次の推進」の基調報告があり、続いて鹿児島大会研究部長から鹿児島県の紹介とともに、「全国へき地教育研究大会鹿児島大会」の基調報告が行われた。

記念プログラムでは、「これからのへき地教育を考える～へき地のよさを生かした教育をめざして～」のテーマでシンポジウムが行われた。登壇者として文部科学省初等中等教育局主任視学官、長崎県教育委員会義務教育課指導主事、鹿児島県熊毛郡中種子町立中種子中学校長、鹿児島県霧島市立永水小学校山村留学制度実施委員会会長の４名、司会に鹿児島大学教育学部附属小学校副校長があたった。登壇者それぞれの立場から、各学校や地域で「へき地のよさ」を生かして取り組んでいる教育実践や地域での活動についての発表があり、その後発表に対して「へき地(ふるさと)の良さを子どもたちに実感させているか」「学校と地域との連携はうまくいっているか」等視点を絞って、フロアからの意見も交えながら質疑応答や意見交換がなされた。

その後、アトラクションとして、島唄「奄美の響き」が唄と三味線により披露された。

最後に、次年度の開催地である広島大会実行委員長の挨拶及び分科会の会場紹介が行われ、鹿児島大会事務局長から広島大会事務局長に大会旗が引き継がれ、全体会を終了した。

午後は、「全国７次研究推進計画研究課題」を踏まえ、６分散会場において各課題ごとに２校（全国ブロック１校、九州ブロック１校）の実践発表が行われ、次に研究協議がなされた。全国各地からの実践発表は、今後のへき地教育の充実・発展に示唆を与えるものであった。また、新たな課題を確認する機会ともなった。

第２日（10月16日）「分科会」

鹿児島県内の１２会場（鹿児島市立黒神小学校、鹿児島市立黒神中学校、南九州市立松原小学校、南九州市立青戸中学校、日置市立扇尾小学校、日置市立土橋中学校、薩摩川内市東郷地区、霧島市立塚脇小学校、霧島市立永水小学校、霧島市立木原中学校、奄美市立宇宿小学校、奄美市立赤木名中学校）において、それぞれの研究テーマを踏まえた各校の特色ある教育について、授業公開及び研究発表がなされた。その後、学校関係者及び参観者において充実した研究協議が行われた。詳細については、次頁以降の各分科会報告を参照いただきたい。

＜２＞分科会報告

Ａ分科会

確かな学力をはぐくむ複式学級における学習指導の在り方

～算数科・「学び方」を高める学習指導を通して～

嬬恋村立鎌原小学校長　**西脇　進**

１　会場校　　鹿児島県鹿児島市立黒神小学校（児童数１８名　４学級　職員数９名）

２　地域・学校の概要

桜島の北東部にあり、桜島港より北回りで約１８㎞に位置する。へき地１級地である。黒神の歴史は噴火とともにある。中でも、文明（５００年前)、安永（２００年前)、大正３年、そして昭和２１年と大爆発では、大量の溶岩の流出で校区が埋没し、本校校舎も溶岩の下に埋まっている。今なお噴煙を上げる南岳と昭和火口に一番近い校区である。地域では豊かな自然を生かし、椿油の生産、びわの栽培、沿岸漁業などが盛んである。児童数は、年々減少してきているが、ここ数年は２０名前後で落ち着いている。特色ある教育活動としては、椿の実拾いと椿油の販売、桜島大根の栽培と競り市体験、保育園や、小中学校、校区が合同で行う大運動会などがある。

３　研究の概要

（１）　研究の内容

①視点；算数科における詳細な「学び方」について明らかにする

②算数科における「学び方」のとらえ方

ア基本的な学習のしつけ　・・・　発表の仕方、ノートのとり方、　学習用具の使い方など

イ問題解決の手順・・・　課題把握　　解決の見通し　自力解決　まとめ　　適用・一般化

ウ数学的な見方・考え方・・・算数科の問題解決に必要な思考の仕方

エ数学的な表現力・・・様々な表現方法を用いて考えたり、自分の考えを表現・説明したりする力

（２）公開授業

①公開授業Ⅰ　第１・２学年：算数科　１年たしざん、２年　かけ算（２）

第３・４学年：算数科　３年わり算、　４年　２けたでわるわり算

第５・６学年：算数科　５年少数のわり算　６年　分数のかけ算とわり算

②公開授業Ⅱ　合同学習：体育科：みんなの跳び箱ランド！

４　所感

全校児童１８名で､完全複式の黒神小学校は子どもたちは生き生きと学ぶ姿が印象的であった。分科会参加者は７７名と分科会の中でももっとも多い学校であったが、子どもたちは少しも物怖じせず熱心に集中して学習に取り組んでいた。これまでの研究をもとに教師が自信をもって授業に臨んでいた。研究の基本がしっかり構築されていて、授業の運びや、板書、子どもの発表の仕方などよく訓練されていた。各学年の発達段階に応じて教師が工夫・改善に取り組んできた証が当日の授業であった。教室は複式に対応した形になっていて、前と後ろに黒板があり、数人の子どもは互いの背中合わせにすわっている。先生はそこを行ったり来たり、大変である。片方に支持を出しておいてもう片方に指導に行くといった具合である。先生がいないときに自力解決に向けて考える時間が確保できているように見えた。複式の授業の在り方を学ばせていただいた。

２時限は全校体育であった。体育館で基本の運動や体ほぐしの運動を全校で行い、各自が目標を決めて器械運動（跳び箱・マット運動）に取り組んでいた。

Ｂ分科会

へき地・小規模校の特性を生かした学習指導の深化・充実

～読解力を育てる指導法の工夫～

長野原町立西中学校長　**大前　博文**

１　会場校　　**鹿児島県鹿児島市立黒神中学校**（生徒数８名　３学級　職員数14名）

２　地域・学校の概要

黒神町は鹿児島市東桜島地区の北東部に位置しており、以前、桜島瀬戸村とよばれ、1854年に島津斉彬により、洋式軍艦「昇平丸」が建造された場所である。

また、この桜島は、有史以来数十回の大噴火を起こし、中でも文明(約 500 年前)、安永(約 300 年前)、大正３年と昭和 21 年の爆発は大規模なものであった。昭和 63 年以来火山活動は沈静化してきたが、平成 18 年に 58 年ぶりの噴火が起こったのをきっかけに再び活動を盛んにし、特に今年は例年にも増して活動が活発である。

黒神中学校は、昭和 22 年に東桜島中学校黒神中学校分校として開校したへき地指定１級の極小規模校である。校区の住民は明朗で温厚であり、地域行事や公民館活動等積極的に参加している。このような地域に育った子どもたちは伸び伸びと生活し、反社会的行為等の生徒指導上の問題は全く見られない。「一人で十人分」を合い言葉に、仲良く元気良く生活している。

３　研究の概要

（１）研究の視点

① へき地・小規模校の特性を生かした基礎学力向上に向けた実践

② 読解力の向上に向けた実践（体験的な活動や多様な表現活動の場の設定等）

（２）研究の実践

① 体験的な活動や多様な表現活動の場の設定（読書活動、朝会等での取組、総合学習等）

② 「読む力（聞く力)」「考える力」「書く力（話す力)」についての指導・支援

（３）公開授業

① 公開授業Ⅰ

【１、２年　技術・家庭（技術分野)】

○ 主題　　「情報モラルのある快適な生活を工夫しよう」～情報に関する技術～

【３年　英語】

○ 単元名　　Ｕｎｉｔ５　　Ｃｅｌｌ ｐｈｏｎｅｓ － Ｆｏｒ　ｏｒ　Ａｇａｉｎｓｔ

② 公開授業Ⅱ

【全学年　総合的な学習の時間】

○ 題材名　　「黒神を知る」

４　所　感

黒神中学校は、全校生徒８名(１年生３名、２年生３名、３年生２名)の極小規模校であるが、「一人で十人分」を合い言葉に行っている教育活動・教育実践、常に自然(噴火する桜島等)と向き合って生活している生徒の様子等から、確実に「生きる力」が育まれていると感じた。

本研究は、体験的な活動や多様な表現活動の場を設定し、「読解力」を伸ばす取組である。この読解力を高めることは、小規模・少人数の中でのコミュニケーションしか経験することができない生徒たちにとって、将来社会に旅立っていくために必要な自他理解や人間関係づくりにとって必要不可欠な学習である。公開授業においては、それぞれの先生方が言語活動を重視した活動を多く取り入れたり、ペア学習等を通して互いに学び合い高め合う展開を組み入れたりと、研究に対する共通理解・共通実践を図り、「読解力」を伸ばすための工夫・改善を積極的に行っていた。正に、黒神中学校の実践は、へき地・小規模校の特性を十分に生かしながらの取組であり、今後のへき地教育の一層の充実を図る上で、大変参考になった。

Ｄ分科会

心豊かで、確かな学力を身につけた生徒の育成

～表現力の向上を目指して～

上野村立上野中学校教諭　　**黒澤　守**

１　会場校　　鹿児島県南九州市立青戸中学校（特地　３学級　特別支援１学級　生徒数８２名）

２　地域・学校の概要

南九州市は、薩摩半島南部に位置し、鹿児島市、指宿市、南さつま市、枕崎市に隣接している。平成１９年１２月に頴娃（えい）町、知覧町、川辺（かわなべ）町が合併してできた新しい市である。戦後の土地改良事業や南薩畑地かんがい事業等により、良質な土壌の畑作地帯となり、一大食料生産基地となっている。

校区は茶畑に囲まれた海抜１６０ｍの高台にあり、眼前に東シナ海、開聞岳（薩摩富士）、大野岳等が広がり、眺望は絶景である。保護者の多くは専業農家で、茶を中心に、人参、大根、甘藷等を生産している。中学生も農作業の重要な働き手として、家の作業の手伝いをする。

青戸中学校は、生徒会活動や部活動が盛んで、生徒自ら学校行事の自主的な運営をしたり、各種大会等での上位入賞を果たしたりしている。また、保護者、地域住民ともに学校教育に対して大変協力的で、全校区民がＰＴＡ準会員となり、盛んなＰＴＡ活動を展開している。

３　研究の概要

（１）研究の内容

①表現力を身に付けさせる取組を行うことによって、「心豊かな生徒の育成」に迫る。

・生徒会活動の活性化　　・「１分間スピーチ」の充実

②表現力を身に付けさせる取組を行うことによって、「確かな学力の定着」に迫る。

・授業の工夫　　・「学習の手引き」の活用　　・「家庭学習強化週間」の設定

・アンケートによる生徒の意識や学習状態の確認　　・家庭との連携

（２）公開授業

①公開授業Ⅰ

１年（３０名）数学　方程式　－　１次方程式の利用

２年（２７名）英語　Program 6　Our　Hopes,　Our　Plans　－　不定詞の名詞的用法

３年（２４名）国語　古典学習　－　「おくのほそ道」（松尾芭蕉）

②公開授業Ⅱ

生徒会活動　「これまでの活動をふりかえろう」

４　所感

青戸中学校は、伝統的に生徒会活動が活発で、生徒会が中心になって運営する学校行事が多い。大きな特徴である全生徒による「発表」（ひとまとまりに構成された文章を掲示物などとともに作品として朗読、披露するもの）は、生徒会役員が企画し、全生徒を巻き込んで作り上げていくもので、作り上げていく過程でのコミュニケーションが表現力を向上させ、発表の中で表現力を発揮できるものである。教師は、「見守り、環境を整え、調整し、相談に乗る」姿勢で活動を支援していた。これは、小規模校における教育では特に大切な姿勢であろうと感じた。

また、学校の伝統的な特長（強み）を生かして研究テーマに迫ろうとしている姿が印象的で、取組の評価についても、「生徒の成長した姿を見てもらうことで、保護者や地域の方に理解していただけている。」という、自信に満ちた言葉が素晴らしいと感じた。

Ｆ分科会

基礎学力の確実な定着を図り、心豊かな子どもの育成を目指して

～小規模校の特性、土橋での学びを生かした小中連携を通して～

みなかみ町立藤原中学校教諭　　**本多　利典**

１　会場校　　鹿児島県日置市立土橋中学校（生徒数36名　３学級　職員数15名）

２　地域・学校の概要

土橋中学校は日置市の東部に位置し、鹿児島市と隣接しており、中心部まで車で20分の場所にある近郊型農村部である。産業は近郊農業が中心であり、特にいちご栽培は有名である。一方、若者の流出により、農業の後継者不足は深刻であり、高齢化・過疎化も進行している。しかし、「地区で育てる子ども、地区あっての学校」の意識が強く、学校の教育活動に積極的な協力が得られる土地柄である。

土橋中学校は、昭和22年に伊集院中学校土橋教場として発足、昭和25年に独立し、昭和55年の新校舎完成・移転を経て創立60周年を迎えた。会場校は日置市の特認校であり、「一人一人にもっと光を」をスローガンに、多くの生徒達を迎え入れる開かれた学校である（今年度は特認校生５名、区域外通学生等３名）。年間を通して「歌声の響く学校」であり、生徒会の主体的活動が伝統で、小学校との様々な合同活動も行っている。平成18・19年度に、中１ギャップの軽減を目指した小中連携の研究を行い、生徒指導の連携や意図的・計画的な子ども及び教員の交流を行ってきた。その成果と反省を踏まえて、平成20年度から上記の研究主題でさらに研究を推進している。

３　研究の概要

（１）　研究の内容

①主体的な学習態度を育成するための工夫（学習支援部会：学習支援の在り方について）

・土橋ガイダンスブック、家庭学習60・90運動、中１ギャップ解消の小中合同研修など

②表現力を育成するための工夫（表現力部会：表現力をつける学習指導法について）

・英語（活動）科、国語科、音楽科、総合的な学習の時間の表現活動中心の小中連携など

③豊かな体験活動の実践（体験活動部会：地域の人材や特産物を生かした体験活動について）

・作物栽培活動、他中学校・高校との交流、職場体験・見学学習、薩摩古道復活pjt.など

（２）　公開授業

①公開授業Ⅰ	１・２年生、小６年生	英語活動	英語劇に親しみましょう
	３年生	国語	状況に生きる「故郷」
②公開授業Ⅱ	全学年	総合的な学習の時間	プロジェクト土橋(たて割班追究活動)
			文化の創造Ⅰ（音楽創作活動）

４　所感

土橋中学校は鹿児島市からわずかの距離だが、農村部の小高い丘に位置し、落ち着いた雰囲気の学校であった。授業では一人一人が生き生きと活動し、盛んな音楽活動では少人数だが迫力のある歌声や演奏が素晴らしかった。また、地域の活動に生徒会主体で積極的にかかわり、学習活動でも一人一人が精一杯活動している様子が伝わってきた。小中連携でも、まず教職員間の共通理解・合同実践がしっかりとできており、「郷中教育」（薩摩藩の伝統的な縦割り教育）のよさを取り入れた教育活動が、意図的・計画的に行われていた。９年間を見通した指導、縦割りや同学年の子ども同士の学び合い、そして表現力の育成という点でも、へき地校の特性を生かした教育が実践されており、示唆に富んだ研究発表であった。

Ｇ分科会

一人一人が生き生きと輝く教育の創造

～伝え合う力を育む学習活動を通して～

草津町立草津小学校教諭　　**千川　和規**

１　会場校　鹿児島県薩摩川内市東郷地区　　鳥丸小学校　学級数３　児童数２９名
山田小学校　学級数３　児童数１７名
南瀬小学校　学級数４　児童数３４名
藤川小学校　学級数３　児童数１８名

２　地域・学校の概要

東郷地区は川内市内の北西部に位置し、さつま町及び出水市に隣接し、国道２６７号線と県道（阿久根・東郷線）に囲まれた農山村である。

東郷地区には、小学校５校が設置されており、児童総数は３７３名である。この中の１校を除く４校（鳥丸小・山田小・南瀬小・藤川小）が複式学級を有する小規模校である。本大会にて授業公開をしたこの４校は職員組織も小さいため、共通理解が十分に　図りやすく一体となった体制が確立されつつある。また、児童の多くは地域内の幼稚園や保育園に在籍していたことから、互いに顔見知りであり４校の合同学習や集合学習が　行いやすい下地を持っている。

３　研究の概要

（１）研究の内容

①伝え合う力に関する分析を進め、それらを高めるための学習環境づくりや支援の在り方の工夫を図る。

②学習指導過程や学校間連携の在り方の工夫を図る。

（２）公開授業

１校時　　国語（２年単式　　３・４年複式　　５・６年複式）

２校時　　英語（４校　集合学習）

４　所感

Ｇ分科会の会場校となった鳥丸小学校は、全校の児童数が２９名の小規模校ではあるが、パソコンやテレビ電話等の最新機器がそろい、校庭の遊具や体育館の設備なども充実していため、へき地の小規模校というイメージとはほど遠いものであった。

公開授業ではテレビ電話などの情報機器を積極的に活用し、「わたりや」「ずらし」を効果的に行っていた。特にテレビ会議システムを活用した６年生の授業ではモニターの向こう側にいる相手を意識しながら会話や話し合いが行われていた。正に研究テーマの伝え合う力の育成が図られていることを強く感じた。

会場となった鳥丸小学校では準備から、当日の運営・接待等で保護者や地域の方が協力をしており、とても児童数２９名の小規模校とは思えないほどの地域住民が集まっていた。休憩時間には郷土料理を振る舞ったり、郷土芸能を披露したりして会場を盛り上げていた。へき地ならではの学校と地域との結びつきの強さを実感することができた。

Ｈ分科会

基礎学力の定着を図る国語科複式・少人数学習指導の在り方

～豊かな音読活動を通して～

群馬県教育委員会義務教育課指導主事　**松村　澄人**

１　会場校　　**鹿児島県霧島市立塚脇小学校**（児童数11名　３学級　職員数９名）

２　地域・学校の概要

本校の校区は、旧国分市の市街地から約 17km 離れた標高 365m の台地に位置している。志布志湾に注ぐ菱田川、錦江湾の敷根海岸に流れる高橋川・検校川の源をなす高原地帯にあり、学校付近がその分水嶺をなしている。霧島連山の裾野に位置しているため、夏は大変涼しくしのぎやすいが、冬は強い北風を受け、寒暖計が零下を示すことも多く、寒さが厳しい。

本校は、明治 36 年(1906 年)に上之段尋常小学校塚脇分教室として創立され、昭和 22 年(1947 年)に現在の塚脇小学校となった。平成２年４月に準へき地に指定された。一時は、100 人を超える児童数であったが、過疎と少子化により児童数が減少し、現在は男子６名、女子６名の計 11 名(特認校生４人含)である。

豊かな自然に囲まれ多くの野鳥が生息しているため、平成 11 年に「県愛鳥モデル校」に指定された。また、「花いっぱい活動」にも力を入れており、市の「花いっぱいコンクール」での受賞歴もある。地域とのつながりも非常に深く、「学校を灯し続ける会」のメンバーを中心に、農業体験・運動会等への参加や初日の出登山、鬼火焚きなど、様々な活動への支援を受けている。

３　研究の概要

（１）研究の仮説

読みに対する意欲が高まるような音読の場を多く設定したり、適切に支援したりすれば、堂々と読めるようになるとともに、自分の思いを深め、伝えあう楽しさを味わうことができるようになるのではないか。

（２）研究の主な内容

【音読の場の設定】

「ア　音読放送」「イ　ねらいを明確にした音読の位置付け」「ウ　音読形態の工夫」

「エ　学年に応じた発表会や劇」「オ　聞き手を広げた音読発表」

【適切な支援】

「ア　音読記号、音読五箇条の作成と活用」「イ　学年に応じた音読カードの作成と活用」

「ウ　読みが困難な児童への手立ての工夫」

（３）公開授業

①公開授業Ⅰ　【全学年国語】　単元名「スイミーの音読発表をしよう」

②公開授業Ⅱ　【複式５・６年国語】　単元名　５年「人物の考え方や生き方をとらえよう」

６年「生き方や考え方を読み取ろう」

４　所　感

塚脇小学校では、児童一人一人に「生きる力」を身に付けさせる上で、国語科の授業の充実が極めて重要であると考え、特に「読むこと」に重点を置いて、全教職員が連携を図りながら研究に取り組んでいる。二つの公開授業では、各児童が音読五箇条に基づいて、しっかりと相手を意識して、感情移入をしながら音読をしたり、互いの音読について学年の枠を超えて感想や意見を堂々と発表し合ったりする姿が見られた。これは、研究の内容の一つである「聞き手を広げた音読発表」に示されているように、担任だけでなく、管理職を含めた他の職員や保護者にも自分の音読を聞かせ、それに対する助言等を受けることができる機会が十分に確保されていることも大きく影響しているものと考えられる。塚脇小学校の実践は、小規模校における国語科の指導の在り方を考える上で、非常に参考になる内容であった。

Ⅰ分科会

少人数の特性を生かした個を伸ばす指導の在り方

～基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を目指して～

沼田市立多那中学校長　**富澤　辰男**

１　会場校　鹿児島県霧島市立永水小学校(児童数４６名　５学級)

２　地域・学校の概要

永水地区は、霧島市の北東部にある霧島地区(旧霧島町)の南に位置し、北に連なる霧島火山群を仰ぎ、南は姶良カルデラの北壁をなす傾斜面で、遠く錦江湾に浮かぶ桜島を望む絶景の地でもある。

校区は東西約９ｋｍ、南北３ｋｍの地域に広がり、大部分は山林・田畑でまとまった集落はなく、人家は点在している。

平成４年度から「山村留学里親制度」を導入し、平成１４年度からは「霧島わんぱく留学」と名づけて現在も教育文化の受け皿として継続中である。

また、平成１８年度より、校区外から児童を受け入れる特認校制度も導入しており、本年度は１０名が霧島市内各地から保護者の送迎や一部路線バスで通っている。豊かな自然の中で、地域の協力を得て、様々な体験活動に取り組んでいる。

３　研究の概要

（１）　研究の内容

○へき地小規模校の特性を生かした一人一人を伸ばす授業の工夫
○主体的に学習に取り組ませるための指導の在り方
○学力向上に向けての基礎的・基本的な内容の定着を図る取組
○生活科や総合的な学習の時間における地域との連携

（２）　公開授業

＜公開授業Ⅰ＞

○３・４年(複式)　算数　３年「わり算」　４年「２けたでわるわり算」
○６年　算数　「分数のかけ算とわり算(１)」

＜公開授業Ⅱ＞

○１・２年　生活科　「秋と友だち」
○５・６年　総合的な学習の時間　「再発見・鹿児島県」

４　所　感

小規模校で、全学級で複式学級に対応した「ガイド学習」に取り組み、子どもたちが主体的に学習に取り組めるような指導を実践し、多くの成果をあげていた。

「算数科学習の流れ」（つかむ→見通す→調べる→まとめる→深める）の作成・活用、ＩＣＴの活用、個人カルテの作成等の手立ては大変に参考になり、自分の学校でも取り入れていきたい。

公開授業では、先生方が穏やかな表情で授業をしていて、子どもたちが受けやすい状況ができていた。また、教室環境もいろいろなところに心配りが見られ、子どもたちを大切にしている先生たちの気持ちを感じることができた。

また、教室の構造において２教室を１教室に、廊下側の壁が全部開閉式に、ロッカーが移動式にと少し狭い教室を使う状況に合わせてより広く、有効に使える工夫が見られた。

教職員一体となった「授業で分かる」という合言葉での教育実践は非常に参考になった。

Ｊ分科会

豊かな心を持ち、生き生きと活動する生徒の育成

～「学びのつながり・心のつながり」をめざして～

安中市立松井田北中学校長　**小板橋　善一**

１　会場校　鹿児島県霧島市立木原中学校(生徒数２２名　３学級　教職員数１２名)

２　地域・学校の概要

霧島市は、鹿児島県中央部に位置し、国分隼人テクノポリスとして発展している県下第２の都市である。温泉地としても有名で、壮大な自然あふれる観光都市である。本地区は、霧島市の東部の山間部に位置し、標高３００ｍを超える農山村である。小さな集落が点在し、杉の美林や茶畑が広がる台地で、農家のほか畜産業も盛んな地域である。

木原中学校は、地区内唯一の小中併設校である。児童生徒の交流が盛んで異年齢集団の好ましい姿が多く見られる。校区の特色を生かした農園学習や、地域行事に積極的に参加して、のびのび学習している。地域や保護者も教育に大変協力的である。また、本校は、霧島市内の特認校として地域外から生徒の転学を積極的に認めており、全校生徒の約半数が地域外から通学している。

３　研究の概要

（１）研究の内容

①指導方法の改善と学習過程の工夫によるわかる授業

②家庭学習の習慣化と個に応じた補充学習の充実

③特色ある体験活動と小中併設の良さを生かした教育活動の充実

（２）公開授業

①公開授業Ⅰ

【全学年・総合的な学習】・・・「農業体験学習発表」「小中合同音楽活動発表」

②公開授業Ⅱ

【１年理科】・・・「身の回りの物質」

【２年数学】・・・「一次関数」

【３年国語】・・・「古典を楽しむ　夏草ーおくのほそ道からー」

４　所　感

木原中学校は、小中連携や異年齢間交流を図りながら、共に助け合い学びあう中で課題を追求する活動を推進し、豊かな心や課題解決能力を育成することを目指している。このことは、学校生活の様々な場面でも見られ、農業体験学習発表・小中合同音楽活動などでそれらの成果が表れている。公開授業Ⅰの小中音楽活動の発表では、中学生２２名による勇壮な太鼓の演奏に続いて、小中学生５１名の合唱が披露された。合唱曲「トゥモロー」終了後、体育館に響いた鳴りやまぬ拍手と、退場時に中学生が差し伸べる手に小学生がすぐに応え手をつなぎながら会場を後にする姿に、小中連携の良好さを垣間見る気がした。

公開授業Ⅱでは、少ない人数のなかでの指導過程に工夫が見られた。前時の復習や宿題、次時の連絡など「つながり」を意識した授業実践と各教室に設置してある提示カードの活用、ラスト１５分の取り組み等、共通して指導がなされていた。また、指導方法の改善では、共通実践事項の設定として（タイマーの活用、学習のしつけ、教具の開発）がなされ、生徒の実態把握とそれを生かした工夫がなされていた。小中の教職員が一丸となって研究に取り組む姿はすばらしく、今後のへき地教育の参考となるすばらしい実践であった。

資　　料

Ⅰ　へき地学校の変遷

（平成１１年度～２０年度末）

年　度	学　校　名	変遷の内容
平成11年度	片品村立片品小学校東小川分校 〃　　越本分校	閉校（平成12年３月）となり、本校に統合。
	利根村立根利中学校	閉校（平成12年３月）となり､利根中学校へ統合。
平成12年度	（勢）東村立沢入小学校	閉校（平成13年３月）となり、花輪小学校、杲小学校と統合し､「あずま小学校」となる。
	利根村立西小学校園原分校	閉校（平成13年３月）となり、本校へ統合する。
平成13年度	南牧村立南牧小学校	閉校（平成14年３月）となり磐戸小学校へ統合。
平成14年度	利根村立南郷小学校 〃　根利小学校	閉校（平成15年３月）となり、西小学校へ統合。
	新治村立入須川小学校	閉校（平成15年３月）となり、須川小学校へ統合。
平成15年度	神流町立中里小学校	閉校（平成16年３月）となり、万場小学校へ統合。
	神流町立万場中学校	閉校（平成16年３月）となり、中里中学校へ統合。
	藤岡市立日野中央小学校 〃　日野西小学校	閉校（平成16年３月）となり、日野小学校へ統合。
	藤岡市立日野東小学校	名称を変更して「日野小学校」となる。（平成16年４月）
	藤岡市立南中学校	閉校（平成16年３月）となり、藤岡西中学校へ統合。
	下仁田町立東中学校 〃　西中学校	閉校（平成16年３月）となり、下仁田中学校へ統合。
平成16年度	中之条町立第三小学校	閉校（平成17年３月）となり、第二小学校と統合し、「沢田小学校」となる。（平成17年４月）
	榛名町立第四小学校	閉校（平成17年３月）となり、第三小学校へ統合。
	南牧村立南牧中学校	閉校（平成17年３月）となり、磐戸中学校と統合し、「南牧中学校」となる。（平成17年４月）
平成18年度	吉井町立入野小学校多比良分校	閉校（平成19年３月）となり、入野小学校と統合する。（平成19年４月）
平成19年度	みなかみ町立須川小学校 〃　猿ヶ京小学校	閉校（平成20年３月）となり、小学校へ統合する。（平成20年４月）
	六合村立第一小学校 〃　入山小学校	閉校（平成20年３月）となり、六合小学校へ統合する。（平成20年４月）
平成20年度	渋川市立三原田小学校栄分校	閉校（平成21年３月）となり、本校へ統合する。

Ⅱ　平成２１年度　へき地学校資料

〈１〉級別へき地学校数

〈（　）内は、内数で休校中の学校である。〉　　平成２１．５．１現在

級別／校種別	県準	特地	国準	１級	２級	３級	４級	A 計 分校	B 県全体 分校	A/B
小　学　校	１０	6	１２	9	0	1(1)	0	３８ 2(1)	３４０ 2(1)	11.2%
中　学　校	4	3	3	6	1	1(1)	0	１８ 1(1)	１７１ 1(1)	10.5%
計	１４	9	１５	１５	1	2(2)	0	５６ 3(2)	５１１ 3(2)	11.0%

〈２〉級別へき地本校分校別学校数

平成２１．５．１現在

校種別＼級別		県準	特地	国準	１級	２級	３級	４級	小　計	合　　計
小学校	本校	１０	6	１１	9	0	0	0	３６	３８
	分校	0	0	1	0	0	1(1)	0	2(1)	(1)
中学校	本校	4	3	3	6	1	0	0	１７	１８
	分校	0	0	0	0	0	1(1)	0	1(1)	(1)

〈３〉級別へき地学校児童生徒数

平成２１．５．１現在

級別 / 校種別	県準	特地	国準	１級	２級	３級	４級	計（A）	県全体（B）	A/B
小　学　校	863	628	819	534	0	0	0	2,844	115,679	2.5%
中　学　校	307	392	183	499	29	0	0	1,410	58,195	2.4%
計	1,170	1,020	1,002	1,033	29	0	0	4,254	173,874	2.4%

〈４〉郡市別へき地学校数一覧

〈(　) 内は、内数で休校中の学校である。〉　　平成２１．５．１現在

No.	郡市	学校数 本校	学校数 分校	学校数 計	内訳 文部科学省指定 4	3	2	1	準	特	県準	合計
1	勢多	小 / 中	1(1) / 1(1)	1(1) / 1(1)		1(1) / 1(1)						1(1) / 1(1)
2	多野	2 / 2		2 / 2			1	1 / 1	1			2 / 2
3	甘楽	2 / 2		2 / 2							2 / 2	2 / 2
4	吾妻	13 / 7		13 / 7				4 / 2	4 / 2	3 / 2	2 / 1	13 / 7
5	利根	7 / 2		7 / 2				3 / 2	3		1	7 / 2
6	前橋		1	1					1			1
7	渋川	1		1							1	1
8	高崎	4 / 1		4 / 1					1	2 / 1	1	4 / 1
9	安中	3 / 1		3 / 1					2 / 1	1		3 / 1
10	沼田	4 / 2		4 / 2				1 / 1			3 / 1	4 / 2
総計	小計	36 / 17	2(1) / 1(1)	38(2) / 18(1)	0 / 0	1(1) / 1(1)	0 / 1	9 / 6	12 / 3	6 / 3	28(1) / 14(1)	38(1) / 18(1)
	計	53	3(3)	56(2)	0	2(2)	1	15	16(1)	9	14	56(2)

※勢多郡富士見村は、平成２１年５月５日に前橋市と合併

〈５〉複式学級の郡市別、編制別、学級一覧(小学校のみ)

平成２１．５．１現在

学年 / 郡市	１・２年	２・３年	３・４年	４・５年	５・６年	３・４・５年	４・５・６年	学級数計	学校数
勢　多	0	0	0	0	0	0	0	0	0
多　野	0	1	0	1	0	0	0	2	1
甘　楽	1	0	2	0	2	0	0	5	2
吾　妻	1	0	2	0	1	0	0	4	2
利　根	3	0	4	0	4	0	0	１１	5
前　橋	1	0	1	0	1	0	0	3	1
渋　川	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高　崎	1	1	1	0	1	0	0	4	2
安　中	2	0	1	0	2	0	0	5	2
沼　田	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	9	2	１１	1	１１	0	0	３４	１５

〈6〉 級別へき地学校児童・生徒数の推移（小・中学校別）

年度	県　準		特　地		国　準		1　級		2　級		3　級		4 級	計　(A)		県全体(B)		(A)／(B)(%)	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
52	6,963	3,270	793	431	970	260	1,522	381	76	43	17	0		10,341	4,385	168,404	77,137	6.1	5.7
53	6,718	3,335	744	407	918	254	1,475	348	60	52	15	0		9,930	4,396	175,155	78,059	5.6	5.6
54	6,649	3,312	673	370	911	231	1,458	306	63	38	14	0		9,768	4,257	184,018	76,447	5.3	5.5
55	6,664	2,983	654	329	981	326	1,255	299	52	35	14	0		9,620	3,972	188,039	79,196	5.1	5.0
56	6,751	3,009	629	310	928	198	1,184	183	47	24	11	0		9,370	3,724	190,882	83,125	4.9	4.5
57	6,559	3,038	603	317	870	221	1,141	302	46	26	11	0		9,230	3,904	191,613	89,121	4.8	4.4
58	6,377	2,945	598	318	958	200	1,109	294	45	18	3	0		9,007	3,775	190,368	89,857	4.7	4.2
59	6,160	2,935	578	311	863	205	1,051	279	51	13	4	0		8,708	3,743	186,953	92,462	4.6	4.0
60	5,808	2,958	570	320	843	196	982	284	47	15	4	0		8,254	3,773	181,535	95,924	4.5	3.9
61	5,623	2,897	575	284	756	206	898	272	50	17	1	0		7,903	3,676	174,525	98,645	4.5	3.7
62	5,433	2,776	536	265	723	215	852	267	48	19	1	0		7,593	3,542	167,356	98,603	4.5	3.6
63	5,308	2,679	664	248	662	224	715	202	46	16	2	0		7,397	3,369	161,507	95,748	4.6	3.5
平元	5,185	2,497	652	238	629	210	686	199	48	14	1	0		7,201	3,158	156,680	91,502	4.6	3.5
平2	2,328	783	1,140	783	1,518	421	1,609	816	110	19	11	9	1	6,717	2,831	152,668	87,619	4.4	3.2
平3	2,252	766	1,142	813	1,486	391	1,597	799	29	83	14	8	1	6,521	2,860	149,153	85,001	4.3	3.3
平4	2,168	733	1,140	782	1,422	390	1,538	813	23	77	11	7		6,302	2,802	145,739	82,396	4.3	3.4
平5	2,110	680	1,110	803	1,356	407	1,506	1,186	18	71	10	5		6,110	3,152	142,339	79,203	4.3	4.0
平6	2,047	614	1,097	796	1,293	407	1,448	751	13	72	5	9		5,903	2,649	139,346	76,265	4.2	3.5
平7	1,977	589	1,065	803	1,242	375	1,414	726	10	68	12	8		5,720	2,569	136,361	74,105	4.2	3.5
平8	1,425	339	1,582	1,013	1,098	369	1,283	710	97	58	2	8		5,487	2,497	132,149	73,180	4.2	3.4
平9	1,334	314	1,503	1,010	1,117	364	1,203	712	80	69	1	3		5,238	2,472	128,340	72,283	4.1	3.4
平10	1,298	302	1,469	940	1,049	346	1,128	703	76	58	0	0		5,020	2,349	125,648	70,481	4.0	3.3
平11	1,222	292	1,398	921	995	329	1,096	713	78	58	0	0		4,789	2,313	123,443	67,831	3.9	3.4
平12	1,160	285	1,350	858	953	336	1,044	692	77	47	0	0		4,584	2,218	121,396	65,681	3.8	3.4
平13	1,042	312	1,318	840	920	333	999	682	64	44	0	0		4,343	2,211	120,264	64,305	3.6	3.4
平14	1,132	476	932	475	1,148	325	794	644	4	41	0	0		4,010	1,961	119,455	63,335	3.4	3.1
平15	1,114	474	1,039	581	951	288	768	613	0	43	0	0		3,872	1,999	119,760	60,356	3.2	3.3
平16	1,090	231	809	535	1,116	243	698	563	0	43	0	0		3,713	1,572	119,273	58,629	3.1	2.7
平17	1,093	353	774	398	1,033	217	665	567	0	35	0	0		3,565	1,570	118,877	58,272	3.0	2.7
平18	1,086	342	731	401	1,019	205	620	554	0	39	0	0		3,456	1,541	118,536	58,059	2.9	2.6
平19	1,020	341	708	415	952	193	584	567	0	33	0	0		3,264	1,549	117,423	58,034	2.8	2.7
平20	921	316	647	407	887	191	531	516	0	32	0	0		2,986	1,462	117,196	57,621	2.5	2.5
平21	863	307	628	392	819	183	534	499	0	29	0	0		2,844	1,410	115,679	58,195	2.5	2.4

Ⅲ　平成21年度　群馬県へき地教育振興会役員

平成２１．５．１現在

会　長　星野巳喜雄（沼田：沼田市長）
副会長　宮前鍬十郎（多野：神流町長）　　谷川　　猛（吾妻：中之条町教育委員長）
　　千明　金造（利根：片品村長）
理　事　佐藤　博之（前橋：前橋市教育長）　　小林巳喜夫（渋川：渋川市教育長）
　　中島　雅利（高崎：高崎市教育長）　　中澤　四郎（安中：安中市教育長）
　　西澤　　晃（多野：上野村教育長）　　髙木　成雄（甘楽：下仁田町教育長）
　　谷川　　猛（吾妻：中之条町教育委員長）　　星野巳喜雄（沼田：沼田市長）
　　千明　金造（利根：片品村長）

評議員

郡　　市	町　　村	評　　議　　員
前　橋　市		佐　藤　博　之　（教育長）
渋　川　市		小　林　巳喜夫　（教育長）
勢　多　郡	富 士 見 村	倉　持　勝　則　（教育長）
高　崎　市		中　島　雅　利　（教育長）
安　中　市		中　澤　四　郎　（教育長）
多　野　郡	上　野　村	西　澤　　晃　（教育長）
	神　流　町	齋　藤　義　久　（教育長）
甘　楽　郡	下 仁 田 町	髙　木　成　雄　（教育長）
	南　牧　村	土　屋　東一郎　（教育長）
	甘　楽　町	柴　山　　豊　（教育長）
吾　妻　郡	中 之 条 町	唐　澤　正　明　（教育長）
	長 野 原 町	黒　岩　文　夫　（教育長）
	嬬　恋　村	萩　原　良　一　（教育長）
	草　津　町	浅　香　　勝　（教育長）
	六　合　村	茂　木　真　一　（教育長）
	高　山　村	高　平　秀　三　（教育長）
	東 吾 妻 町	小　林　靖　能　（教育長）
沼　田　市		津久井　　勲　（教育長）
利　根　郡	片　品　村	飯　塚　欣　彦　（教育長）
	昭　和　村	板　橋　芳　郎　（教育長）
	みなかみ町	登　坂　義　衛　（教育長）

監　事　　黒　岩　文　夫（吾妻：長野原町教育長）　　飯　塚　欣　彦（利根：片品村教育長）

平成21年度　へき地教育振興会事務局及び郡市町村事務担当者・担当指導主事

事務局　書記・会計　松村　澄人　　飯泉　尚士

郡市町村	連　絡　先	事務担当者	へき地担当指導主事
前　橋　市	前橋市教育委員会	後　藤　文　博	黒　澤　ゆみ子
渋　川　市	渋川市教育委員会	唐　澤　裕　美	
勢　多　郡	富士見村教育委員会	狩　野　　聡	
高　崎　市	高崎市教育委員会	佐　藤　明　彦	井　上　高　広
安　中　市	安中市教育委員会	岩　﨑　　聡	
上　野　村	上野村教育委員会	市　川　久美夫	
神　流　町	神流町教育委員会	高　橋　　仁	
甘　楽　郡	西 部 教 育 事 務 所	塚　越　真由美	
吾　妻　郡	吾 妻 教 育 事 務 所	堀　地　直　博	桑　原　武　史
沼　田　市	沼田市教育委員会	角　田　　巧	登　坂　一　彦
利　根　郡	利 根 教 育 事 務 所	勅使川原知広	

Ⅳ　平成21年度　群馬県へき地教育研究連盟役員

役　　員

・理事長　　西脇　　進(吾妻：嬬恋村立鎌原小学校)
・副理事長　有阪　俊人(安中：安中市立坂本小学校)　　大前　博文(吾妻：長野原町立西中学校)
　　富澤　辰男(沼田：沼田市立多那小・中学校)
・常任理事　黒澤　右京(多野：上野村立上野中学校)
　　石北　直樹(利根：みなかみ町立藤原小・中学校)
・事務局長　乾　姫志美(吾妻：嬬恋村立干俣小学校)
・会計部長　小野塚　則幸(吾妻：六合村立六合中学校)
・理　　事

ﾌﾞﾛｯｸ 郡市	氏　　名	勤　務　校	勤務校所在地（電話番号）	備　　考
A 多野・甘楽・安中・高崎・前橋	有阪　俊人	安中市立坂本小学校	安中市松井田町1323 (027-395-2428)	副理事長
	黒澤　右京	上野村立上野中学校	上野村楢原113 (0274-59-2040)	常任理事
	小林　　勝	高崎市立宮沢小学校	高崎市宮沢町1100-1 (027-374-2317)	
	堀口世津子	甘楽町立秋畑小学校	甘楽町秋畑1553-1 (0274-74-9502)	
	瀧澤　邦夫	安中市立上後閑小学校	安中市上後閑1305 (027-385-6461)	
B 吾妻	西脇　　進	嬬恋村立鎌原小学校	嬬恋村鎌原1339 (0279-97-3006)	理事長
	大前　博文	長野原町立西中学校	長野原町応桑1543-310 (0279-85-2249)	副理事長 研究部長
	乾　姫志美	嬬恋村立干俣小学校	嬬恋村干俣1313 (0279-96-0454)	事務局長

B 吾 妻	山田　京子	長野原町立第一小学校	長野原町林1394-5 (0279-82-2145)	
	小野塚則幸	六合村立六合中学校	六合村生須543 (0279-95-3572)	会計部長
C 利 根 ・ 沼 田 ・ 渋 川	富澤　辰男	沼田市立多那小・中学校	沼田市利根町多那732 (0278-53-2698)	副理事長 調査部長
	石北　直樹	みなかみ町立藤原小・中学校	みなかみ町藤原3491 (0278-75-2102)	常任理事
	新木　延謹	片品村立片品中学校	片品村鎌田4480 (0278-58-2019)	
	大谷　　明	沼田市立利根東小学校	沼田市利根町追貝93 (0278-56-3016)	
	神保　昌之	片品村立片品小学校	片品村鎌田3952 (0278-58-3126)	
「板木」実務担当	茂木　敬夫	沼田市立利根西小学校	沼田市利根町1025 (0278-56-2267)	

V　平成21年度　群馬県へき地教育センター指導員

センター名	氏　　名	勤　務　先	勤務校所在地（電話番号）
吾妻東部	綿貫　猛郎	中之条町立中之条小学校内	〒377-0423 中之条町伊勢町1035-1 (0279-75-2130)
吾妻西部	佐々木紀代勝	嬬恋村嬬恋会館	〒377-1526 嬬恋村大字三原691 (0279-97-3004)
利　　根	吉澤　博通	利根教育事務所内	〒378-0031 沼田市薄根町4412 (0278-23-0165)

Ⅵ　平成21年度へき地教育功労者

No.	氏　　名	該当する内規・功績の概要
1	黒澤（くろさわ）　けさえ（け さ え） **神流町教育委員会推薦**	平成２１年３月に神流町学校給食センター職員として退職するまで、神流町のへき地学校等に３２年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
2	矢島（やじま）　弓子（ゆみこ） **神流町教育委員会推薦**	平成２１年３月に神流町学校給食センター職員として退職するまで、神流町のへき地学校等に２４年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
3	竹下（たけした）　一子（かずこ） **長野原町教育委員会推薦**	平成２１年３月に長野原町立北軽井沢小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校等に２３年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
4	鎌原（かんばら）　郷司（さとし） **嬬恋村教育委員会推薦**	平成２１年３月に嬬恋村立田代小学校校長として退職するまで、利根郡、吾妻郡内のへき地学校等に３１年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
5	加藤（かとう）　次郎（じろう） **嬬恋村教育委員会推薦**	平成２１年３月に嬬恋村立西中学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校等に３３年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
6	松本（まつもと）　佐惠子（さえこ） **嬬恋村教育委員会推薦**	平成２１年３月に嬬恋村立東小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校等に１６年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
7	相京（あいきょう）　佐代子（さよこ） **高山村教育委員会推薦**	平成２１年３月に高山村役場職員として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校の用務員や学校給食センター調理員として２２年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
8	関谷（せきや）　きみ子（きみこ） **沼田市教育委員会推薦**	平成２１年３月に沼田市立利根西小学校校長として退職するまで、利根郡、沼田市内のへき地学校等に１７年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
9	清水（しみず）　繁（しげる） **沼田市教育委員会推薦**	平成２１年３月に沼田市立沼田西中学校校長として退職するまで、利根郡、渋川市、沼田市内のへき地学校等に１６年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
10	星野（ほしの）　令子（れいこ） **沼田市教育委員会推薦**	平成２１年３月に沼田市立沼田西中学校教諭として退職するまで、利根郡、沼田市内のへき地学校等に２１年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
11	石田（いしだ）　三枝子（みえこ） **片品村教育委員会推薦**	平成２１年３月に利根郡片品村立片品南小学校教諭として退職するまで、利根郡内のへき地学校等に２６年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
12	星野（ほしの）　育美（いくみ） **片品村教育委員会推薦**	平成２１年３月に利根郡片品村立武尊根小学校公仕として退職するまで、利根郡内のへき地学校等に２４年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
13	永井（ながい）　しづ子（しづこ） **片品村教育委員会推薦**	平成２１年３月に利根郡片品村学校給食センター調理員として退職するまで、１７年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。

あ　と　が　き

群馬県へき地教育資料「板木」第５８集の発刊にあたり、ご指導くださいました群馬県教育委員会の先生方をはじめ、ご協力いただきました関係各位に心より感謝申し上げます。

「板木」は、昭和２７年に群馬県へき地教育の資料集として第１号が創刊され、以来とぎれることなく刊行されてきました。この間、多くの方々の努力により、群馬県におけるへき地教育の歩みを示すものとして、その価値を確かなものとしております。

近年の群馬県におけるへき地学校を取り巻く状況の変化は大きなものがあります。児童・生徒数の減少はいよいよ進み、学校の統廃合も各地で行われております。へき地教育も新たな課題に直面しているようです。

群馬県へき地教育研究連盟も４ブロックから３ブロックへの編成替えが行われ、へき地学校経営研究会とへき地教育研究大会が１つになるなど事業の見直しがなされました。そのような中で、今年度、新たに編成された C ブロック（利根、沼田、渋川地区）が編集を担当することとなりました。変革期での編集ということで、すべて例年通りとはいきませんでしたが、難しい課題を抱える中でへき地教育に邁進している多くの方々から、忙しい中にもかかわらず、原稿執筆等ご協力を頂きました。おかげさまで、無事平成２１年度のへき地教育の記録を残すことができました。心よりお礼申し上げます。

皆様の協力によりできあがった「板木」第５８集が、今後のへき地教育推進の資料としてより多くの人に活用されることを願っております。

なお、この第５８集の編集に携わったメンバーは、次のとおりです。

板木実務担当　茂木 敬夫

群馬県教育委員会	矢島　　正（義務教育課長）
	鈴木　寛史（義務教育課　指導係長）
	松村　澄人（義務教育課　指導係　指導主事）
	飯泉　尚士（義務教育課　指導係　指導主事）
群馬県へき地教育研究連盟	
	西脇　　進（県へき連　常任理事・理事長）
	大前　博文（県へき連　常任理事・副理事長・研究部長）
	富澤　辰男（県へき連　常任理事・副理事長・調査部長）
	有阪　俊人（県へき連　常任理事・副理事長）
	乾　姫志美（県へき連　常任理事・事務局長）
	小野塚則幸（県へき連　常任理事・会計部長）
	石北　直樹（県へき連　常任理事）
	黒澤　右京（県へき連　常任理事）
	瀧澤　邦夫（県へき連　理事）
	神保　昌之（県へき連　理事）
	小林　　勝（県へき連　理事）
	堀口世津子（県へき連　理事）
	大谷　　明（県へき連　理事）
	山田　京子（県へき連　理事）
	新木　延謹（県へき連　理事）